

ルニ其規程ニ違フモノ又ハ訴訟用罫紙ヲ用ヒサル訴狀
或ハ丁卯以前平民相互ノ貸借或ハ證券印稅規則ニ觸レ
タル證書ヲ始メ出訴期限ヲ經過シタル等布告布達ニ於
テ裁判ニ不及ト制定シタルモノハ人民之レヲ訴フヘキ
ノ辭柄ナク官又之レヲ受理スヘキ道理ナキヲ以テ素ヨ
リ受理スヘカラサル儀ト相心得可然哉果シテ然ラハ從
前ノ如ク目安糾ノ際契約上ノ紛紜ヲ是非セサルモ訴狀
ノ案檢ハ欠ク可カラサル儀ニ付受付掛ノ官吏ニ於テ適
宜ノ調査ヲ爲スハ勿論ノ儀ト相心得可然哉此段相伺候
條特別至急御指令有之度候也

(指令) 十年四月 伺ノ通
二十日

以下四月廿
一日指令

(第三百三十四(同上) 十年四
月九日

静岡裁判所

本年丁第貳拾九號ヲ以テ出訴ノ起頭不受理裁判被廢候
旨御達相成候處從前公布中出訴ニ及ト雖モ受理セス云
々ノ成規アリ右ハ無論今般ノ御達ニ拘ハラス直ニ之ヲ
擯斥シ可然哉其他裁判上證據ニ相立タス又ハ無効云々
等既ニ成規トナルモノ及ヒ證據ノ端緒ナキモノト雖モ
一旦之ヲ受理シ被告ノ答書ヲ徴シ而シテ其成規ニ憑據
シ裁決致スヘキヤ疑團不尠右至急御指揮有之度此段相
伺候也

(指令) 十年四月 伺ノ趣成文律ニ抵觸スルモノヲ除ク外
二十一日

總テ之ヲ受理シ至當ノ審糺ヲ遂ク可キ事

但證據ノ端緒ナキモノトハ何等ノモノヲ指シタル
ヤ尙ホ詳細取調再應可伺出事

(第三百三十五)初告裁判所ノ再審ニ服セサル者控訴期限起算ノ儀ニ付伺)十年四月 宮城上等裁判所

初告裁判所ノ裁判ヲ受ケ負訴訟トナリ後發ノ證ヲ以テ再訴スルニ其裁判所ノ受理スルモ告者ノ訴アルモ皆權限外ナルヲ以テ控訴期限ハ最初ノ裁判言渡ヨリ起算云々客年十二月二十七日付ヲ以テ相伺候處相手方ノ詐偽姦謀ニヨツテ至要ノ證據書類ヲ藏匿サレ云々地方裁判所ノ再審ニ係ルモノヲ除クノ外最初ノ裁判言渡翌日ヨリ控訴ノ期限ヲ起算ス可キ旨御指令アリ依テ其御趣旨ヲ甄味スルニ控訴期限ハ相手方ノ權利ニ關スルヲ以テ其姦詐ヨリ出ルニ非ルノ外ハ再審ヲ得可ラサルハ業已ニ了解セリ然ルニ後ノ裁判言渡翌日ヨリ起算スレハ期

限内ニシテ前裁判言渡翌日ヨリ起算スレハ既ニ期限ヲ過去タル者アリ是等ハ初告裁判所ニ於テ再訴ヲ新訴ト認メ受理スルヲ以テ原被兩造モ亦初審ト確信スルヨリ控訴ノ期限ヲ過去ルモノニシテ縱ヒ裁判官失錯ノ責ヲ受ルモ不服者終ニ控訴ノ權利ヲ復スルヲ能ハサレハ人民保護上缺乏無シト謂フ可カラス如此キ場合ニ於テハ其原由裁判官ノ失錯タルモ相手方之ヲ拒マス己ニ答辨ヲナシ裁判ヲ受ケタル上ハ其姦詐ニ出ルニ非スト雖モ後ノ裁判言渡ノ翌日ヨリ控訴期限ヲ起算スルモ妨ケ無之候哉

右相伺候至急仰御指揮候也

(指令)十年四月 伺ノ趣最前指令ノ通可心得事

四月廿三日
日指令

議)十年四月
十四日

宮城上等裁判所

(第三百三十六)法律ノ自カラ消滅更改シタル者御布達ノ建
 訴答文例第二十條末項裁判官曲庇壓制云々ニ付客年十
 二月中相伺候處明治八年第九十壹號公布ニ因リ文例二
 十條末項裁判以前ノ場合ニ於テ控訴上告スルヲ聽サス
 ト雖モ若シ裁判官曲庇壓制等之レアルキハ大審院章程
 第五條ニ因リ刑事告訴ヲ爲スハ此限ニアラサル旨御指
 令(第十九號)有之ニ付八年第九十一號公布ヲ反覆熟考ス
 ルニ上等裁判所章程第一條ヲ以テ文例第二十條末項ハ
 民事上自ラ消滅シタルモノト疑團始メテ氷釋セリ右文
 例第二十條ノ存廢ニ付テハ八年九十一號公布後己ニ各
 上等裁判所ノ伺アリテ訴答文例ニ照スヘシトノ御指令

アリ又東京裁判所ノ伺アリテ取消ニハ無之トノ御指令
 アリ今又當上等裁判所ノ伺アリテ東京裁判所ヘノ指令
 改正トノ御指令アリ是ニ由テ之ヲ觀レハ裁判官ト雖モ
 御指令ヲ待タサレハ存廢ノ間疑惑ヲ免レス況ソヤ一般
 ノ人民ニ於テヲヤ其疑ヲ容ル、迄モ無ク守株確信スル
 ハ必然タリ故ニ若シ裁判官ノ曲庇壓制ニ係ルノ人民ア
 ルニ於テハ大審院章程第五條ニ依リ刑事ノ告訴ヲ爲ス
 ヲ知ラス數十里外ヨリ時日ヲ曠シ金錢ヲ費シ上等裁判
 所ニ至リテ申告セシニ空ク却下ニ逢ハ、其怨嗟果シテ
 何如ツヤ是自己ノ思慮及ハサルノ過チト云フト雖モ抑
 亦政府保護ノ道ニ於テ間然無シト謂フ可カラス依テ文
 例第二十條末項ハ勿論其他ノ法律自ラ消滅シ自ラ改更

シタルモ尙疑似ニ涉ルモノハ其旨御布達ニ相成候テハ如何候哉此段及建議候也

(指令) 二十年四月 十三日 建議ノ趣ハ布達ニ及ハス候事

(理)

宮城上等裁判所申議ノ趣旨ハ法律存廢ノ別ヲ一々人民ニ知會セシメサレハ存ヲ以テ廢トシ誤解ノ末權利ヲ妨害スルニ至ルトナリ然ルニ布告布達ナル者ハ後令ニ因リ前令ハ自カラ消滅シ各省ノ告達ハ太政官ノ告達ニ因テ自カラ其力ヲ失フモノナリ然ルヲ今ニ至テ一々各民ニ知會セシメント欲スル其趣意ハ善シト雖モ必スモ別段之布達ヲ要セサルナリ

(第三百三十七) 出訴期限ノ儀 (同) 二十年四月 鹿兒嶋裁判所

四月廿六日指令

鹿兒嶋裁判所並同裁判所宮崎支廳共今般ノ暴動ニ依リ閉廳相成候ニ付テハ同縣下人民諸取引出訴期限ノ儀ハ閉廳ヨリ開廳迄ノ處期限内ニ算入セサル様御布達相成度此段上申仕候也

(指令) 二十年四月 十六日 伺ノ趣人民諸取引等出訴期限ノ儀ハ今般ノ騷擾ニ因リ阻障セラレ出訴スルヲ得サリシ者ハ其實際ノ景狀ヲ量リ其間ノ時日ヲ除棄シ期限内ニ算入セサルヲ勿論ニ候事 但シ布達ニ及ハサル事

(理)

算判事伺ノ趣一應條理アリト雖モ閉廳開廳ノミヲ以テ其期限ヲ定ムル時ハ閉廳以前若クハ開廳以後今般

ノ騷擾ニ因リ阻ラレ若クハ妨ケラレ出訴スルコトヲ得
サル者實ニ慇スヘキナリ且ツ該廳ハ騷擾ノ際他方ニ
移轉スル而已ニシテ未タ嘗テ閉廳ノ達アラヌ因テハ
右出訴期限ノ儀ニ付テ布達ヲ要ス可キカ如シト雖モ
今般ノ騷擾ニ因リ阻障セラレタル者ハ猶ホ天災ニ因
リ出訴ヲ得サリシ者ト同一ノ理ナルヲ以テ實際ノ情
狀ヲ量リ其時日ヲ除棄スルコト固ヨリ當然ノ事ニシテ
毫モ疑ヲ容レサルナリ

以下四月廿七日指令

(第三百三十八)地券面書改メ故障ニ付民刑附帶之儀ニ付伺

十年四月九日

東京裁判所

檢事局

茲ニ甲アリ所有スル地券證ヲ乙ニ抵當トシ金ヲ借ル共
金返濟能ハサルヲ以テ丙ニ依頼シ該地所ヲ賣渡シ其金

ヲ返濟セシコトヲ求ム丙承諾シ該地所ヲ買取リ乙ニ返濟
シ地券証ヲ請取リ戸長ニ届ケ券面書改メ乞戸長聞キ届
ケ甲ヲシテ書改メ願ヲ出サシム甲事故ニ托シ或ハ旅行
シテ其願ヲ出サズ依違遷延今日ニ至ル適々甲別ニ負債
アリ民事ニ訴ヘ出ラレ身代糶賣ノ處分ヲ受ケ該地所モ
券面書改メサルヲ以テ糶賣處分ノ中ニ在リ依テ丙ヨリ乙
ノ依違遷延スルハ詐爲ナル旨ヲ訴ヘ出ルニ至ル右ハ甲
ノ依違遷延果シテ故意ヲ以テ忌避スルモ刑法ヲ以テ糾治
スル迄ニハ及バス丙ノ買ヒ取ル所ノ地所ハ券面既ニ書
改メノ爲メ戸長預リ居只甲ノ書改メ願ヲ出サザルヨリ
今日ニ至ルモノニ付該地所民事處分中ト雖モ甲ニ申付
ケ券面書改メ願ヲ出サシメ右地所ヲ丙ノ所有ニ歸セシ

メント存候得共民刑附帶ニ付此段相伺候也

(指令) 十年四月 伺ノ趣寶田傳左衛門ノ所爲詐僞不良ニ

出ツルト思料スヘキ者コレアル上ハ吟味ノ手續可致

事

但全ク詐僞不良ノ所爲ナキト判然シタルニ於テハ
伺出後段ノ通取計フヘキト

(理)

東京裁判所檢事伺原告小久保某願訴ノ要旨ハ被告寶
田某地券書換ノ願ヲ遷延スルヤ疑フヘキ者アルヲ以
テ其始末ヲ吟味セラレノトヲ請願スルニ在リ且ツ伊
東治英ノ始末書ニ據ルニ寶田某ノ詐僞不良ト思料ス
可キ者アリ何トナレハ地券調印ノ際捷急迎ヲ受ケ歸

宅シ忽然近江ニ向テ出發スルハ全ク地券書換ヲ規避
スルノ意ニ出ツルモノ、如シ又其ノ近江ヨリ歸ルヤ
直ニ田子某へ借金ノ爲メ身代限ヲナスハ如何ニモ姦
計ニ出ツル者ノ如シ然レハ其吟味ノ手續ヲ爲スヘキ
ト固ヨリ檢官職務ノ所在ナリ

(第百三十九) 本年第十二號公布預金穀フ儀ニ付伺 十年二
月六日

静岡裁判所

本年第拾貳號布告中封ノ儘並融通使用ヲ許サ、ル預ケ
金穀ノ出訴期限ヲ定メラレタル明文アリト雖モ通常預
ケ金穀即裁判上貸金穀ト看做スヘキモノ、義相見ヘス
右ハ是迄通出訴期限無之モノト相心得可然哉此段相伺
候也

〔指令〕二十年四月 同ノ趣封ノ儘預リ置敷或ハ融通使用ヲ
爲サ、ル明文ナキ者ハ七年第二十七號布告ニ依リ一
切通常貸借同様裁判致スヘキ義ニ付其旨可相心得事
但シ通常貸借同様處分スルニ於テハ丁卯以前ニ係
者ハ裁判ニ及サル義ト可心得事

以下四月廿
八日指令

〔第四百十同〕上十二年二月

神戸裁判所

第一條 本年第拾貳號公布ニ預金穀ノ訴訟ハ其証書中
ニ封印ノ儘預リ置候敷或ハ預リ中融通使用ヲ爲サ、
ル明文アルモノハ年數ニ拘ハラズ受理スヘキ成規ニ
候處自今貳拾年以前ニ係ルモノハ一切裁判不及ト有
之私ニ此字面上ニ就テ考ルニ二十年ヲ限リ裁判不及
者ハ單ニ此二ツノ明文アル者ニ止リタル義ニテ尋常

ノ預金穀ニ至リテハ之ニ干與セサル者ト相心得可然
乎

第二條 二十年ノ期限ハ其無期ノ者ハ無論條約結了ノ
日ヨリ起算スヘケレモ有期ノ者ニ至リテハ其期限ノ
切レタル翌日ヨリ起算スヘキ乎

右相伺候條至急御指令被下度候也

〔指令〕二十年四月 同ノ趣 第一條 封ノ儘預リ置敷或ハ
融通使用ヲ爲サ、ル明文ナキ者ハ七年第二十七號布
告ニヨリ一切通常貸借同様裁判致スヘキ義ニ付其旨
可心得事

但シ通常貸借同様處分スルニ於テハ丁卯己前ニ係
ル者ハ裁判ニ及ハサル義ト可心得事

第二條 該布告ノ日ヨリ廿年以前ノ貸借ニ係ル者ハ一切裁判ニ及ハサル儀ト可心得事

但シ七年第四十八號達ニ依リ人民周知ノ日ヲ待テ

施行スヘキ事

(第四百十一)同上十五年三月十五日

金澤裁判所

第一條 本年一月廿九日第拾貳號御布告預ケ金穀ノ訴訟ハ其証書中ニ封印ノ儘預リ置候歟中自今貳拾年以前ニ係ルモノハ一切裁判ニ不及云々ト又壬申十一月廿七日司法省第四拾壹號御達第貳條中全ク預金ニテ利息禮金ヲ請ケサルハ及裁判云々トアリ是ニ由テ之レヲ推考スレハ右第拾貳號御布告ハ封印ノ儘預リ置等ノ明文アル預ケ金穀ノミノ文意ニ相見候得共其預ケ金穀証書中

封印ノ儘預リ置等ノ明文ナキモノト雖モ期限ナクシテ利息禮金ヲ請ケサルモノハ右御布告ニ依照シ貳拾年以上ニ係ルモノハ受理致サスシテ可然ヤ

第二條 明治六年十一月五日第三百六拾貳號御布告第四條條約証書中期限ナキ者ハ出訴ノ日ヲ期限ト看做シ云々トアリ依テ無利息立替米金受負金賣掛金敷金手形金等ノ証書中期限ナキモノハ自今尙ホ貳拾年以上ニ係ルト雖モ之ヲ受理セサルヲ得ス然リト雖モ抑出訴期限ヲ定ムルヤ祖先等約定ヲ爲シ己ニ其本人生存中自ラ得ヘキ權利ヲ拋棄セシヲ相續人ニ於テ數百年以前ノ証書ヲ以テ其義務ヲ請求シ或ハ原告人等死亡ニ係リ事理曖昧ニ至リ裁判上等ニ不都合ヲ釀成スルヲ防クノ原

由ナラソ果シテ然ラハ特ニ融通使用ヲ爲サ、ル等ノ明文アル預ケ金穀ノミニ限ル理由ナキニ似タリ如何心得可然ヤ

右疑義相伺候條至急御指令奉仰候也

(指令) 二十年四月八日 伺之趣 第一條 封ノ儘預リ置敷或ハ

融通使用爲サ、ル明文ナキ者ハ七年第廿七號布告ニヨ

リ一切通常貸借同様裁判致スヘキ義ニ付其旨可心得事

但シ通常貸借同様處分スルニ於テハ丁卯己前ニ係

ル者ハ裁判ニ及ハサル義ト可心得事

第二條 該布告ノ日ヨリ廿年以前ノ貸借ニ係ル者ハ

一切裁判ニ及ハサル義ト可心得事

但シ七年第四十八號達ニ依リ人民周知ノ日ヲ待

テ施行スヘキ事

(第四百十二)地所建物ヲ二重書入之儀ニ付伺(十年四月十四日)

長野縣

壹ヶ所之土地建物ヲ二重ニ書入金穀ヲ借受ルキ壹番ノ證書ハ明治八年四月中ノ期限ニ係ルヲ以期日己來金主ヨリ屢返償ノ儀ヲ督促スルト雖モ金員不整ニ付慈愛ヲ以テ延期ノ示談ヲ遂證書書換ヲ要スルニ負債者於テ在共遷延中第貳番書入證書壹番書入金若干ヲ以何某へ抵及期限以後ノへ第貳號ノ奥印ヲ受ケ他ヨリ負債ヲ爲ス儀ハ書入無之ニ第貳號ノ奥印ヲ受ル場合ニ際シ村ノ後壹番證書ヲ書換第壹號ノ奥印ヲ受ル場合ニ際シ村吏伺出ル者アリ右者假令貳番書入ノ后ニ至リ證書ヲ改ムルトモ貳番抵當書ニ壹番書入ノ明文有之上ハ日付ハ

貳番ノ後ニ相成ト雖モ最前ノ書入ヲ繼モノニ就其事由
ヲ明記シ第壹號ノ與書致サセ可然候哉

但貳番證書ニハ壹番證書ノ期限己後ヲ記注有之トモ
本文同様相心得可然候哉

前條ノ場合ニ於テ貳番證書ハ向壹ケ年ヲ期トシ壹番書
換ノモノハ該年期以內ノ期ヲ定ムルハ勿論ニ候得共若
貳番抵當期限外ノ延期ヲ結約スルキハ壹番抵當ノ權理
無之モノト見做シ可然候哉

前條ノ場合ニ於テ期限己後ニ係ルモノハ假令書入ヲ繼
理由アリト雖モ貳番書入期限ノ内外ヲ不問無論條約ヲ
消却シタルモノト視做シ壹番抵當ノ權利無之儀ニ候哉
右件々相伺候即今出願本月廿日期限ノモノ有之候條至

急御指令有之度候也

(指令) 二十年四月 第一條 伺ノ通

但義務ノ更改シタル時ハ此限ニアラス

第二條 第三條 第一條指令ノ通ニ付一番ノ權利有之
候事

(理)

長野縣伺第壹番ノ者縱令其證書ヲ書替ヘルモ其契約
ヲ繼續スル而已ニシテ義務ノ更改スルヲ無之ニ於テ
ハ第壹番ノ權利ヲ有スルハ固ヨリナリ今マ伺書ノ趣
ヲ見ルニ慈愛ヲ以テ延期ノ示談ヲ遂クルト有之トキ
ハ無論其契約ヲ繼續スル者ナリト思考ス

(第四百十三) 違約償金證書讓渡ノ儀ニ付伺(二十年四月
二十日)

内國人二人契約上互ニ違約セハ償金ヲ出ス可キ明文ノ
 證書爲取換アリ然ルニ一方違約セハ一方ニ對シ之ヲ需
 ルノ權アリ而シテ之ヲ需ル一方ノ者是ノ證書ヲ他人ニ
 讓ラントスル時ハ明治九年第九十九號公布ニ準據シ違
 約者へ書換セシメ之ヲ他人へ讓渡シ其効アルモノト存
 シ候得共爲念相同候右ハ實際伺出候モノ有之候條至急
 何分ノ御指揮有之度候也

〔指令〕二十年四月十八日 伺ノ通

但九年本省達第八十號ノ通損害ノ點ヲ超過シタル
 償金ハ裁判上無効ニ屬スルヲ勿論タルヘシ

以下四月三十日指令

〔第四百四十四〕本年第十二號公布預金穀ノ儀ニ付伺）十年二月十二日

日

高知裁判所

本年第十二號ヲ以テ預ケ金穀ノ訴訟ハ其証書中ニ封印
 ノ儘預リ置候歟或ハ預リ中融通使用ヲ爲サ、ル明文ア
 ルモノハ年數ニ拘ハラス受理スヘキ成規ニ候處云々ト
 有之御布告ノ意味ヲ考フレハ從來其証書中ニ封印ノ儘
 預ルカ又融通使用ヲ爲サ、ルノ明文無之上ハ假令預ケ
 金穀ノ名目アルトモ華士族ハ己巳六月二十五日平民ハ
 丁卯十二月三十日以前ノ年數ニ拘ハリ受理スヘカラス
 トノ成文ナカラサルヲ得ス然ルニ明治五壬申年本省第
 四十一號御布達第二條中ニ利息禮金ヲ請ケサル預ケ金
 穀ハ及裁判ト有之マテニテ別ニ二箇ノ明文有無ニヨツ
 テ受理不受理ヲ定メラレタル儀ハ無之殊ニ明治七年五

月十日元小田縣伺第二條中ニ云々ト雖モ預ケ金穀ノ名義ナレハ華士族ハ己巳六月二十五日前後平民ハ丁卯十二月三十日前後ノ區別無之ト相心得可然哉ノ御指令(日誌)七年第一百十ニ伺ノ通リト有之トモ本年第十二號御布告ニヨリ彼是參考スレハ其ノ明文無之モノハ華士族ハ己巳六月二十五日前平民ハ丁卯十二月三十日前ノ分ハ貸金穀同様ニ見做シ受理不致儀ト相心得可然哉此段相伺候也

〔指令〕十年四月 伺ノ通

但シ元小田縣ヘノ指令ハ改達候事

神戸裁判所ヘ改達 十年四月 三十日

明治七年五月十日附ヲ以テ元ト小田縣ヨリ預ケ金穀云

々伺ノ第二條ヘ伺ノ通ト指令候處右ハ華士族ハ己巳六月廿五日前後平民ハ丁卯十二月三十日前後ノ區別致スヘキ義ニ付此旨可相心得候事

〔第四百十五〕無利足預金穀証書中封印ノ儘或ハ使用ヲ爲

サルル明文ナクシテ返濟無期限ナルモノ出訴期限

之儀伺 十年三月五日 新潟裁判所

預金穀証書中封印ノ儘或ハ融通使用ヲ爲サル明文ナキ分ハ明治七年第貳拾七號太政官御布告ニ依リ同年五月一日以後ハ貸金同様ニ裁判可致ノ處右明文ナキ証書無利ニシテ返濟無期限ノ分モ明治六年第三百六拾貳號御布告ノ出訴期限規則第四條ニ依據セスシテ本年第拾貳號御布告ニ準據シ其証書ノ年月日附ヨリ起算シ貳拾

年以前ニ係ルモノハ裁判ニ不及シテ可然哉此段奉伺候
間至急仰御指揮候也

④ 太政官へ上稟 十年四月九日

本年第十二號公布預ケ金穀訴訟ノ儀ハ過去ノ事ヲ指
スヤ將タ將來ノ事ヲ謂フヤ法文明確ヲ欠クト雖モ思
ニ必ス既往ノ事ノミニ限リ一時ノ活斷ヲ以テ之カ限
界ヲ立テシ者ニシテ即チ丁卯以前ノ貸借訴訟ハ不採
上ノ類ナラント信用セリ若シ之ヲ將來ノ事トシ通常
ノ出訴期限ヲ定メラレタル者トセハ抑モ又附托物_預
ヲ云金銀ナラハ封_ハ儘_マニ出訴ノ期限ヲ設クルハ何
融通使用ヲ許サハルモ_ノニ出訴ノ期限ヲ設クルハ何
等ノ理由ナリヤ本來預ケ預リノ約ハ金穀貸借ノ約ト
其性質ヲ異ニスルモノナルニ出訴ノ期限ヲ設クルハ

政府ノ法律ヲ設テ我カ人民ノ權利財產ヲ保護スルノ
原理ニ戻ルモノナリ今此ニ貸借ト其性質ヲ異ニシ金
穀貸借ニ出訴期限ヲ設ケ預ケ預リノ約ニ出訴期限ヲ
設ク可カラサルノ理由ヲ述ントス抑政府保護ノ點ヨ
リ之ヲ論スル時ハ假令ヒ幾多ノ歲月ヲ經ルト雖モ貸
シタル者へハ返償スヘキノ義務ヲ執行セシムルコソ當然
ノ理ナリ然レモ年移リ物換リ事跡モ自ラ堙滅シテ其
証ヲ得ルニ由ナク縱令ヒ之ヲ得ルモ証以テ証トナス
ニ足ラス徒ニ紛争ヲ生シ權利者却テ權利ヲ失ヒ義務
者却テ義務ヲ免ル、ニ至ルノ恐レアリ元來金穀ノ貸
借タルヤ貸主ハ其契約期限ニ至ラサレハ返償ヲ要求

スルノ權ナク借主ハ公ニ之ヲ自由ニ使用スル所有權ヲ得タル者ニテ期限ニ至リ始メテ返償ノ義務アリ故ニ債主其期限ヲ過テ數十年ノ久ヲ經ルモ一應ノ催促ナク又訴フルトモ無キ時ハ法律上借主ハ曩既ニ返償シタル者ト見做シ又債主ハ既ニ其權利ヲ拋棄シタル者ト見做スノ理由ニ基ク是レ金穀貸借上出訴期限ノ設アル所以ナリ然ルニ附托ノ約ハ本來懇親信用ノ點ヨリ起ル者ニシテ財産ヲ自家ニ藏貯スルノ安堵ナラサルカ或ハ子孫ノ爲メ慮ル所アルヨリ之ヲ他人ニ附托シ保護ヲ依頼スル所以ナルヲ以テ預ケ金ハ必ス融ル之ヲ貯藏ス附托者ハ何時タリヒ之ヲ取戻ヲ得ヘキルモノナリ言ヲ俟タス受托者ニ在テハ受托中敢テ其所ハ固ヨリ言ヲ俟タス受托者ニ在テハ受托中敢テ其所

有權ヲ得タルモノニ非ス其所有權ハ他人ニ在ルヲ明認シテ其附托ヲ受ケ之ヲ保護スルノ義務アル者ニテ附托者ノ求メニ應シ何時モ之ヲ返戻セサル可カラサルノ理由アリ故ニ制法者ハ此ノ理由ニ基ツキ雙方ノ權利義務ヲ保護完全ナラシムヘキモノナリ是レ其附托物等ニ出訴ノ期限ヲ設ク可カラサルノ理由ナリ彼ノ有名ナル佛國民法中此ノ然レト受托者受托ノ物期限ヲ立サル所以ナラシ然レト受托者受托ノ物品ヲ轉賣若クハ遺失等ヲナシ現存セサル時附托者ヨリ要償ノ訴ヲナスハ固ヨリ出訴ノ期限ヲ要スヘキナリ請フ嘗ミニ之ヲ論セソ元來受托者ハ最初契約ノ時ヨリ二種ノ義務ヲ負フ者ナリ第一ハ附托者ノ求ニ從ヒ何時タリ共返戻スヘキノ義務アリ第二ハ若シ返戻

シ能ハサル時ハ其償ヲ爲ス可キノ義務アリ故ニ其物
 品受托者ノ手ニ現存セサル時ハ第二ノ場合即チ其償
 ノ要求ヲナサ、ルヘカラス是ニ於テハ其附托物ヲ轉
 賣遺失セシ日ヨリ出訴ノ期限ヲ起算スヘク若シ附托
 者ヨリ轉賣遺失等ノ日ヲ證據立ル能ハサル時ハ初メ
 附托契約ノ時ヨリ起算スヘキ者タリ抑モ附托契約ハ
 ニ權利アリテ其附托セシ翌日ニテモ又何時ニテモ取
 戻シ得ヘキモノナルニ付キ若シ其証ヲ立ル能ハサル
 時ハ其附托契約ノ日ヨリ起算セシ其証ヲ立ル能ハサル
 サル可カラサル理由アル者ナリ是レ法理ノ然ラシム
 ル所蓋斯場合ニ至テハ一般負債要償ト同一ノ性質ナ
 レハナリ是ニ依テ之ヲ觀レハ附托物取戻ノ訴ニ二十
 年ノ出訴期限ヲ立ルハ事理ニ反シ事實ニ戻リ決シテ
 期限ヲ設クヘキ者ニ非ス而シテ亦必シモ出訴期限ヲ

立サルモ物換リ星移リテ現物存在セサルニ唯其預リ
 証文ヲ以テ強テ取戻ヲ訴ルアルモ即チ右第二ノ場合
 ニ移ルヲ以テ之ヲ裁スルハ自ラ出訴期限ニ與ルヘケ
 レハ決シテ不都合ヲ生セサルナリ然ル時ハ該公布ハ
 全ク過去ノ事ノミニ限リ候儀ト信用イタシ候過般各
 裁判所ヨリ陸續伺出候ニ付右ノ主旨ヲ以テ指令可及
 ト存候條一應爲念相伺候也

右御裁令ノ上左ノ通指令ス

〔指令〕十年四月 伺ノ趣ハ本年第十二號公布ノ日ヨリ二
 十日

十年前以前ニ係ル者ハ裁判ニ及ハサルト義ト心得ヘシ
 但シ封ノ儘預リ置歟或ハ融通使用ヲ爲サ、ル明文
 ナキ者ハ七年第二十七號布告ニ依ツテ悉皆通常貸

借ヲ以テ處分致ス可キ事

(第四百十六)本年第十二號公布預ケ金穀ノ儀(同)十年三月五日

京都裁判所

本年第十二號公布預ケ金穀ノ訴訟ハ其證書中ニ封印ノ儘預リ置候歟或ハ預リ中融通使用ヲ爲サ、ル明文アルモノハ年數ニ拘ハラス受理スヘキ成規ニ候處自今二十年以前ニ係ルモノハ一切裁判不及トアルハ其預ケ金穀授受ノ日ヨリ滿二十年ヲ以テ期滿得免ノ制限ヲ立ラレタルモノナラシテ然ラハ右公布ノ趣旨ハ單ニ封印ノ儘或ハ融通使用ヲ爲サ、ル明文アル預ケ金穀而已ヲ指スモノニシテ右明文ナキ預ケ金穀無期限ノモノハ明治六年第三百六十二號公布出訴期限規則第四條條約

證書中期限ナキモノハ出訴ノ日ヲ期限ト看做シ何時出訴候共不苦ト云ニ依リ何時モ出訴ノ權ヲ有スルモノナリ然レハ今般ノ公布ニ依リ封印ノ儘或ハ融通使用ヲ爲サ、ル明文アル預ケ金穀ハ滿二十年ニシテ出訴ノ權ヲ失シ反テ其明文ナキ預ケ金穀ニ於テハ幾千年ヲ經ルトモ出訴ノ權ヲ有スル頗ル不權衡ヲ生シ裁判上差問候間今般ノ公布ニ準據シ尋常預ケ金穀無期限ノモノ亦受理不致シテ可然哉此段伺出候也

(指令)十年四月三十日 伺ノ趣ハ本年第十二號公布ノ日ヨリ二

十年以前ニ係ル者ハ受理ス可カラサル義ト心得可シ但封ノ儘預カリ置候或ハ融通使用ヲ爲サ、ル明文ナキ者ハ七年第二十七號布告ニ依ツテ悉皆通常貸

借同様處分ス可キ義ニ付不權衡無之事

以下五月一日指令

(第四百十七)同上)十年五月二日

福島裁判所

預ケ金穀ノ義ハ明治五年壬申本省第四拾壹號御布達第二條ニ依リ利息又ハ禮金ヲ受ケサル分ハ己巳六月及ヒ戊辰以前ノモノト雖モ受理致シ來リ候處今般第拾貳號御布告ニ曰ク預ケ金穀ノ訴訟ハ其証書中ニ封印ノ儘預リ置候歟或ハ預リ中融通使用ヲ爲サ、ル明文アルモノハ年數ニ拘ハラズ受理スヘキ成規ニ候處自今二十年以前ニ係ルモノハ一切裁判不及候云々ト之レアリ該御布告ニ於テハ証書中封印ノ儘預リ置ク等ノ明文之レ無キモノハ年數ヲ劃リ受理不受理ノ成規アルノ意義含蓄スルモノ、如シ此ニ因テ之レヲ案スルニ明治七年第二十

七號御布告ヲ以テ右本省第四十壹號御布達第二條ハ御取消相成候モノ歟然ルニ側ラ本省日誌明治九年第二十一號宮崎縣伺ヲ閱スルニ前記第四十一號御布達第二條ハ依然存スル様相見ヘ旁疑義ニ涉リ此段相伺候條至急御指令被下候也

(指令)十年五月十一日 伺ノ趣七年第二十七號布告ニ依リ五年第三百十七號布告及ヒ同年當省第四十一號布達第一條ノ通り處分可致儀ト可相心得事

但シ本文ノ理由ナルヲ以テ舊宮崎縣ヘノ指令ハ改達候事

鹿兒島裁判所へ改達 十年五月一日

客年二月廿九日付ヲ以テ預金穀ノ儀ニ付舊宮崎縣へ指

令及置候處右ハ以來援引不相成儀ト可相心得此旨相達候事

〔第四百十八〕刑事上告取扱ノ儀ニ付伺 十年四月二十日

大 審 院

初告裁判所ニ於テ二重典賣ニ關シタル轉償又ハ追徴ノ申渡ヲ爲シタル節其申渡ニ不服ナル者上告狀ヲ該裁判所へ差出セシニ明治九年十月二十三日附ヲ以テ池田五等判事ヨリ刑事ニ附帶スル民事ノ處分ヲ受ケ不服ナル者上告ノ儀ニ付御省へ伺ノ御指令ニ〔第八號第〕同ノ趣ハ刑事ニ附帶シテ起ルモノト雖ヒ到底民事ノ處分ニ歸スヘキ筋ニ付民事ニ付テ不服ノ者ハ民事ノ手續ニ依ル可キ儀ト可相心得事但シ初告裁判所ニ於テ刑事ノ申渡ヲ

爲シタル時ハ申渡ヲ受ケタル者モ刑事ノ上告ヲ爲スチ得ヘキハ無論ナリトアルニ基キ該裁判所ニ於テ刑事ニ附帶スル民事ノ處分ニ不服ナル者ナレハ民事ノ手續ニ依ルヘキ者ニ付當裁判所ニテ難取扱旨指令ヲ附シ上告狀却下セシニ付上告人ニ於テハ前條池田五等判事ヨリ伺ノ御指令但書ニ初告裁判所ニ於テ刑事ノ申渡ヲ爲シタル時ハ申渡ヲ受ケタル者モ刑事ノ上告ヲ爲スヲ得ヘキハ無論ナリトアルニ依ルヘキヲ該裁判所ニ於テ本條民事ノ手續ニ依ルヘキ者ト爲シ却下セラレタルハ御指令ノ但書ニ反對致シ不服ノ旨ヲ以テ先キノ上告狀ヲ直チニ本院へ差出シ候者有之右ハ原裁判所ヲ經由シタル者同様受理致シ候テ可然哉此段相伺候條至急御指令相

成度候也

〔指令〕十年五月一日

伺ノ趣ハ刑事ニ附帶シテ起リタル民事ニ付テノ不服ナレハ民事ノ手續ニ據ラサレハ受理ス可カラサル事

但曩キニ東京裁判所へ指令但書ノ通刑事ノ申渡ニ不服ノ者ハ上告スルヲ得ルハ勿論ト心得可シ

〔理〕

大審院伺刑事上告云々ノ儀ハ抑モ控訴上告手續ニ乖キタルモノナレハ受理ス可キモノニアラサルヤ必セリ又二重典賣ニ關シタル轉債又ハ追徴ノ申渡ハ刑事ニ附帶シテ起ルヲ以テ刑事裁判官ニ於テ其處分ヲ爲スニ任カスト雖モ其轉債追徴ノ性質ハ全ク民事ナレ

五月四日
指令

ハ之ニ不服ヲ唱フル時ハ民事ノ手續ニ依ルヘキハ當然ナリ尤モ曩キニ東京裁判所へ指令但書ノ通本訴刑事ノ言渡ニ就キ上告ヲ得ヘキハ言ヲ俟タサレハナリ
〔第四百四十九〕昨九年御省甲第一號布達但書疑議ノ廉伺〔十年四月二
十七日
神奈川縣

昨九年御省甲第一號布達但書甲第四號第一項ノ旨趣ハ
代人無之場所ニ限リ代人差出不苦儀ト相考罷在候處
御省指令錄民事部第二號京都裁判所ノ伺御指令免許代
言人アリトモ人少ニテ事實差問云々トノ文義事實差問
ノ四字ヲ以考レハ不得止ニ出ル全ク該布達但書ノ旨趣
ト符合致シ居候得共其後同錄第十號大坂上等裁判所伺
第十一號鳥根縣伺御指令ハ該布達但書ノ旨趣ト矛盾致

シ候様相考疑議ヲ生シ候付テハ本人疾病事故ニシテ其至親及ヒ十ヶ月以上ノ雇人無之節他ノ代人ヲ出スハ代言人ノ有無ニ不拘都テ本人ノ自由ニ任スル儀ト相心得可然哉目今區長ヨリ伺出ノ趣モ有之ニ付至急御指令有之度此段相伺候也

〔指令〕十年五月四日 伺ノ通

但京都裁判所并大坂上等裁判所等ヘノ指令ハ各伺ノ主意ニ對シタル指令ニシテ該達シト矛盾無之候事

三月一日分

〔第五百十〕預ケ金穀ノ儀ニ付伺 十年二月二日 東京上等裁判所
今度太政官第十二號公布ヲ以預ケ金穀期滿得免ノ法被定候處抑預ケ金穀ノ儀ハ從來裁判上三種ノ區別有之第

一該公布面掲載相成居候証書中封印ノ儘預リ置歟或ハ融通使用ヲ爲サ、ル明文アルモノニシテ則チ從前新律綱領費用受寄財産條ニ問ヒ處分セシモノ第二証書中兩様ノ明文ナキモノニシテ則チ七年太政官公布第二十七號ニ依リ貸金同様ノ裁判ニ及ヒ右刑律ニ問ハサルモノ第三前兩様ノ明文ナク利足禮金等申受ルモノニシテ壬申本省布達第四十一號第二條ニ基キ丁卯十二月以前ノ分ハ裁判ニ及ハサルモノ即チ是ナリ然ルニ是迄前書第二項ノモノハ第一項ノモノト等シク年數ニ於テハ定限無之候處其處分方ハ從前ノ通可据置筋ニ有之候哉權衡不都合ニモ存候得共該公布面右第二項ノ分含有不致様相見ヘ候間此段相伺候至急何分ノ御指示有之度候也

① 太政官へ上稟

東京上等裁判所伺本年第十二號布告預ケ金穀ノ件ヲ
 審思スルニ右ハ全ク明治五年本省第四十一號布達第
 二條ニ基キ七年第廿七號布告ノ旨趣ヲ狹隘ノ意義ニ
 解セシヨリ起ル疑議ニシテ之ニ一步ヲ進メテ廣ク其
 法意ヲ了解セバ其疑一朝ニシテ氷釋セシ依テ該布告
 ノ意ヲ釋ヌルニ其貸金同様ニ裁判スト云フモノハ啻
 ニ之ヲ刑律ニ問ハサルノミナラス都テ通常貸借同様
 ニ裁判シ明治五年第三百十七號布告ニ據リ丁卯十二
 月晦日以前ニ係ル者ハ一般裁判ニ及ハスト爲ス者ナ
 ルヤ必セリ仍テハ別紙ノ通略指令可及ト存候此段一
 應相伺候也

右裁下ノ上左ノ通指令ス

〔指令〕十年三月一日

伺ノ趣封ノ儘預カリ置歟或ハ融通使用ヲ

爲サ、ル明文ナキ者ハ七年第廿七號布告ニヨリ一切

通常貸借同様裁判致スヘキ義ニ付其旨可心得事

但シ通常貸借同様處分スルニ於テハ丁卯以前ニ係

ル者ハ裁判ニ及ハサル儀ト可心得事

〔第百五十一〕地所年限賣買及ヒ質地証文ノ儀ニ付伺〔九年八月

二十

六日 三 重 縣

第一條 茲ニ年季ヲ定メ地所買得シタルモノアリ自作

又ハ他人ヘ宛テ作致サセ貢租諸役之レヲ勤ムルモノ其

年季中ハ地所所有ノ權買者ニ有スル者ニ似タリト雖モ

明治七年第百四號及ヒ明治八年第百六號公布其ノ地券

書換ヲ爲サ、ル限リハ即チ未タ地所買得ノ効力ナキモ
 ノニ付右地所買得者ニ於テ其買得ノ証及ヒ小作証文ヲ
 以テ小作米或ハ加地子米淹滞ノ訴ヲナストモ准ス可ラ
 サル乎

第二條 同上地所買得者ニ於テ其ノ買得ノ証ヲ有スト
 雖モ貢租諸役共依然賣者ニテ勤ムルモノ右買得ノ証文
 ノミヲ以テ買得者ヨリ地所代金取戻シノ訴ヲナスモノ
 ハ明治六年第三百六十二號公布出訴期限第二條ニ照シ
 准不准ヲ決シ可然乎

但シ第一條ノ場合ニ於テ地券書換ノ訴訟ヲ爲シ第二
 條ノ場合ニ於テ地所不渡ノ訴訟ヲ爲スアリト雖モ何
 レモ先ツ其所有者タルノ確据ヲ前ニ置カサレハ裁判

ノ結ヲ成ス能ハサルニ在ルヲ唯タ其買得ノ証書而已
 ヲ以テシテ之レカ確据タル可キ地券狀ヲ書換ノコトヲ
 裁判ニ得ント欲シ及ヒ地所ヲ受取ント訴フルカ如キ
 到底無着ノ裁判ニ歸ス可キヲ以テ採用及ハスシテ可
 然乎猶又此ノ如キハ行政上ノ裁判ニ屬スル者ト心得
 可然候哉

第三條 同上証文中年限相立チ元金返濟致サハ地所差
 戻ス可キ旨及ヒ年限相立チ幾年過タルモ元返濟致サハ
 無異議地所差戻ス可キ旨ノ約定タルカ如キハ文言中ニ
 代金受取リ正ニ地所賣渡ス云々トシテ其ノ賣渡等ノ字
 句之レアルモ約定ノ期限又ハ期限後元金ト原地ト交換
 ノ本約定タルモノニシテ買主即チニ於テハ元金返濟ヲ

受クレハ原地ノ儘差戻ス可クシテ未タ其買得ノ地所ヲ自己ニ變更シ敷成トスルカ如シ田屋或ハ之レヲ賣却讓與等ヲ行フヲ得サル者ニ在ルヲ以テ視レハ純乎買主ニ所有ノ權ノ完備シタル者ニ非ス然レハ文言中ニ賣渡等ノ字句アルモ詮スル處唯タ貸借金ノ質地ト看做サ、ルヲ得サルヲ覺エ果シテ然ラハ右ノ如キハ年季賣買ノ名稱ヲ用ヒス之レヲ無年季質地ナルモノ、類似トシ而シテ其實際ニ就キテ質入又ハ書入ノ區別ヲ審究シ明治六年第十八號公布ニ照準シ取捨裁判及ヒ可然乎

但シ本文ノ如クナル時ハ証文中期限元金返シ地所差戻スノ明文之レ無クモ既ニ年季ノ定メ之レアルモノハ同シク明治六年第十八號公布第一二三條ニ照シ貸

借ヲ行フタルモノト看做可然乎

第四條 前條々其ノ實際ヲ問ハス總テ年限賣買ト看做ス可キニ於テハ假令ハ丁卯十二月以前ノ貸借ニシテ質地差入ル、等ノ明文之レアル証文ヲ明治六年第十八號公布ニ照シ書改メノ期限ヲ失スルニ由リ尋常貸金催促ノ訴ヲナス者アラソニハ証文上質地ヲ差入レタル貸借ナリト認メ丁卯以前ノ貸借ナリト雖モ採上ケ裁判及ハサル可ラス而ルニ被告ニ於テハ証文上質地差入ル等ノ文字之レアルモ唯タ該地ヲ書入ニナシタル迄ニテ貢租諸役モ皆地主即チ被ニ於テ勤メ來ルニヨリ質地ニアラスト答辨ス依テ役場ノ帳簿ヲ査スルニ曾テ原告ノ質地ニ取り置キタルノ証據視ル可キ無シ然時ハ地所ハ書入

レノ貸借ト看做シ丁卯以前ノ貸金ナルヲ以テ採上ケサルノ裁判ニ出テサル可ラス斯ノ如キモ尙實際ニ就カスシテ証文面ニ依リ質地ヨリ起ル貸金ノ裁判致ス可キモノニ可有之乎
右迅速御指揮被成下度此段相伺候也

同上伺 十年一月十六日

熊谷裁判所

第壹條爰ニ地所賣買約束ヲ爲スニ追テ地券書換相渡ス可キ云々記載戸長與印ノ証書ヲ授受シ未タ地券書換ノ手續ヲ爲サ、ル内賣主他ノ負債ノ爲メ身代限ノ處分ヲ受ル時ハ明治八年第百六號公布ニ依リ買主ニ其地所所有ノ權無之ニ付其地所糶賣ノ上債主一同金高ニ應シ分配金ヲ受取り若シ買得スル處ノ金額ニ不足相立時ハ該

証書ニ加印スル保証人へモ辨償申付可然哉將タ地所賣買ヲ保証スルモノニ付右金返償ノ義務ヲ負擔セサルモノニ可有之乎

第二條前條ノ証書ヲ所持スル者身代限揭示滿期後ニ至リ其地代金取戻ヲ訴出ル時ハ出訴期限第二條ニ依リ處分致シ可然哉

右至急御指揮有之度此段奉伺候也

④ 太政官へ上申

三重縣及ヒ熊谷裁判所伺ノ趣ヲ按スルニ賣買ノ契約既ニ成リタル者ナレハ買主ハ其賣主ニ對シ地券ノ書替ヲ要求スルノ權アルトハ固ヨリ不俟言ナリ八年第百六號ノ公布ヲ熟閱スルニ末段ノ結句規則ノ通り地

券書替可申請事ト明示セラレタル者ナレハ勿論賣買
約束ノ成リタル上ハ其地券書替ノ請求ヲ爲シ得可キ
トハ疑ヲ容ル可カラサルナリ因テ左ノ通略指令イタ
シ度存候得共爲念一應相伺候也

右裁令ノ上左ノ通指令ス

〔三重縣へ指令〕十年三月八日 第一條 未タ地券ノ書替之ナク

ニ賣主ニ對シ既ニ買得ノ証アル者ニ付キ固ヨリ受理
スヘキ事

第二條 伺ノ通

但書既ニ買得ノ証アルヲ以テ地券書替又ハ地所受
取ノ訴ヲナスモノハ受理スヘシ固ヨリ行政裁判ノ
限ニ無之事

第三條 伺ノ通

但書其實賣買ナレハ年季ノ定メコレアルニ賣買ノ
裁判可致事

第四條 其實際ニ就キ處分可致事

〔熊谷裁判所へ指令〕十年三月八日 伺ノ趣地所賣買ノ約束既ニ
成リ戸長奥印ノ証書ヲ授受スル上ハ買得ノ証尤モ著
明ナル者ニ付賣主身代限難賣ノ部中ニ入ル、トヲ得
ズ尤モ詐欺不良ノ所爲ニ出タル賣買ハ此限ニ非ス
但本條ノ通ニ付第一條末段第二條ノ差支ハ無之筈
ニ候事

〔第五百十二〕身代限處分ノ儀伺九年十月二日 函館裁判所
明治六年二月廿日滋賀縣伺同年三月廿日 指令ニ戸主身代限申渡

候節夫婦子弟私有物不殘賣拂候テ相渡候義ニ候乎左候
 ハ、妻嫁ス節衣服等若干持參致候テ夫ヨリ讓受不申分
 又ハ子弟丁年ニ相成自分別稼ヲ以利分ヲ得儲置候品モ
 有之處矢張右戸主ノ爲ニ賣拂ニ相成候テハ妻子弟ノ者
 難澁不少云々御指令ニ戸主身代限ノ處分ヲ受ル時ハ妻
 持參ノ衣類ハ勿論子弟別稼ヲ以儲置候品ト雖モ其戸籍
 内ニ編入ノ者ハ規則ノ品ヲ除キ其餘ノ分ハ糶賣ニ致シ
 濟方可申付トアリ右御指令援引難相成義ハ勿論ニ候得
 共爾後同様ノ事件アラハ右御指令ノ通相心得可然哉且
 身代限ニ管セス候得共妻所有ノ金及妻名宛ノ貸附証文
 等妻死スレハ右御指令ニ比準シ戸主タル夫ノ所有タル
 ヘキ哉果シテ然ラハ爰ニ一女アリ未タ嫁セサル前所有

スル金員若干ヲ甲家ニ貸付証文取置キ乙家ニ嫁ス右貸
 付金アル儀ハ其夫ニ包藏シ遂ニ死ス故ニ婦ノ生存中夫
 ナル者該貸付金アル事ヲ知ラス後日篋笥ヲ檢シテ右証
 文ヲ得タリ因テ夫ヨリ甲ニ對シ返償ヲ促スト雖モ婦ノ
 生家ヨリ該貸金タルヤ婦ニ前夫ノ子アリ之ニ附與スル
 トノ遺言アルニヨリ口述ノミニ夫ノ所有スルヲ肯セス
 終ニ夫ト婦ノ生家ト該金所有ノ權ヲ爭フニ至ル如斯ハ
 夫ノ所有ニ歸シ可然哉相伺候也

① 太政官へ上申 十年三月 十二日

函館裁判所伺ノ趣ヲ審思スルニ前段ノ如キハ過般新
 瀧裁判所伺ニ付詳細申陳セシヲ以テ今復喋々ヲ用ヒ
 ス後段妻名宛貸付金云々ハ遺囑ノ有無ニ拘ラス亡妻

ノ子ニ歸スヘキ者ニシテ夫之ヲ所得スルノ理ナシ因
テ左ノ通略指令可及ト存候得共一應爲念相伺候條至
急御裁可相成度候也

右御裁下ノ上左ノ通指令ス

(指令) 十年三月 何ノ趣 前段 同籍ノ子弟等所有ノ公

證アル財産ニシテ詐偽ノ所業ナキ者ハ戸主身代限ノ
部中ニ編入スヘカラサル事

但右ノ理由ニ依テ六年中滋賀縣ヘノ指令ハ改メテ
相達候事

後段 妻名宛貸附金云々ハ其妻所有ノ貸付金タル確
証アルニ於テハ遺言ノ有無ニ拘ハラヌ其亡妻ノ子ニ
歸ス可キ事

正誤

第十九號十八丁十一行 (判毀)ハ(破毀)ノ誤

同 廿六丁三行 (伺ノ典)ハ(何ノ典)ノ誤

同 廿七丁六行註 (第十九號)ハ(第十五號)ノ誤

同 廿八丁六行 (窺知スル)ノ下(ニ)ヲ脱ス

同 四十丁一行 (戸長ハ)ハ(戸長ノ)ノ誤

印行所 東京 博聞社

司法省指令錄民事部第二十號附錄

〔裁判所ヨリ發出スル人民呼出狀脚夫賃金ノ儀ニ
付松平内務權大書記官ヨリ照會〕十年八月十八日

岩手兵庫兩縣ヨリ裁判所ニ於テ人民呼出脚夫賃金等ノ
儀別紙ノ通申出有之ニ付左記ノ通可及指令ト存候處昨
九年當省丙第十八號ハ元御省ニ於テ太政官ニ御建議ニ
出候儀ニモ有之旁御省御意見ノ程一應承知致シ度此段
及御照會也

別紙

指令案

岩手縣へ

一 書面脚夫賃金身代限處分ノ上尙不足有之節ハ其區内ノ

損失ニ相立可致棄捐尤但書丙第十八號達ハ民事ノミニ
係ル儀ト可相心得事

兵庫縣へ

書面伺ノ趣左ノ通可相心得事

第一項 伺ノ通

第二項 赤貧ノ者旅費繰替金ノ儀ハ追テ裁決ノ上曲
者ヨリ差出入費ヲ以テ償却可爲致答ニ候得共若本
人曲者トナリ身代限處分ノ上尙償却スル能ハサル
場合ニ於テハ官費支給可致事

第三項 使賃又ハ郵便税ノ儀ハ其區内ノ損失ニ相立
可致棄捐事

別紙

昨明治九年御省丙第十八號各地裁判所御用狀遞送凡例
第二條 人民呼出狀或ハ督促狀ノ類ハ總テ民費タルヘ
トアリ然ル處爰ニ民事詞訟ニ付各扱所ヲ經テ人民呼出
ヲ達スルアリ素ヨリ其脚夫賃金ハ民費タルヲ以テ裁判
所ヨリ其賃金ハ一時扱所ニ於テ繰替置追テ本人ヨリ可
取立トアルニ依リ扱所常備金ヲ以繰替置追テ本人へ償
還ヲ促スモ素ト極貧ニシテ其返還スル能ハサル者アリ
右等ノ類ハ其裁判决定ノ上曲者ヨリ償却スル者ト雖モ
若シ本人曲者トナリ負債ヲ償フ能ハサルヲ以身代限ノ
處分ニ逢ヒ財産分散ノ節ハ右賃金ハ其財産糶賣中ヨリ
先取ノ權アルモノト心得可然乎試ニ一昨明治八年五月
滋賀縣ヨリ司法省へ伺指令ヲ參觀スルニ役場ヨリ立替

スル入費ハ第一番ニ引去ル可キ事トアリ果シテ然ラハ
若其賃金タモ不足相立候ハ、本人ハ勿論其相續人ニ至
ル迄身代持直次第可取立筋ニ可有之哉相伺申候現時本
文ノ類屢有之事務上差支候間至急何分ノ御指揮被下度
候也

但丙第十八號御達ハ刑事ニ係ルモ同様ト相心得ヘキ
乎刑民事ノ區別無之ニ付是又添テ相伺候也

明治十年六月八日

岩手縣令嶋惟精

内務卿大久保利通代理

内務少輔前嶋密殿

九年第十八號ヲ以裁判所御用狀遞送凡例御達相成候處
第二條總テ民費タルヘシト有之候右ハ九年司法省第五

號布達訴訟入費規則第十一條第十二條ノ通曲者一身ノ
私費ニ可相立モノニシテ管内割民費ニハ無之被存候
赤貧ノ者被告トナリ喚問相成候節途中旅費難支候ハ、
戸長繰替候モ償還ノ道無之候間其事由裁判所ヘ爲申立
可然哉

既ニ戸長ヨリ本人ヘ達シタル使賃又ハ郵便税本人身代
限相成候モ償還ノ道ナキニ付官費仕拂可相成哉
右伺出候間早々御指令有之度候也

明治十年四月十六日 兵庫縣權令森岡昌純

内務卿大久保利通殿代理

内務少輔前嶋密殿

〔民法課長牟田口權大書記官ヨリ回答〕十年九月八日

岩手兵庫兩縣ヨリ裁判所ニ於テ人民呼出脚夫賃錢等ノ儀ニ付伺書相添御照會ノ趣了承因テハ聊カ意見ノ廉左ニ陳述仕候

岩手縣ヘノ御指令案ニ身代限處分ノ上尙ホ不足有之節ハ區内ノ損失ニ相立棄捐スヘシトアリ右ハ素ヨリ一私人ノ詞訟ニヨツテ生スル入費ナレハ之ヲ區内ノ損失トナスハ其理ナキカ如シ然レモ之ヲ本人ハ勿論共相續人ニ至ル迄身代持直シ次第取立ツヘキ事トナスモ實ハ辨償ノ際限之レナク區内民費ノ計算上ニモ不都合ノ事モ之レアル故ニ斯ノ通御指令相成儀ニ候ハ、別ニ異議ナシ

兵庫縣伺ノ第一條ハ貴省御指令案ノ通ニテ異議之レ

ナシ

同第二條御指令案中身代限處分ノ上尙ホ不足スル時ハ官費支給可致トアリ是レ全ク窮民救助ノ御趣意ニ出タル御指令案ナラハ別ニ異議ナシ

同第三條伺ニ戸長ヨリ本人ヘ達シタル使賃又ハ郵便税トアルハ裁判所ノ民事詞訟上ニ係ルモノナレハ岩手縣ノ御指令案ニ縷陳セシ意見ノ如シ因テ茲ニ贅セ

附議

昨九年貴省達丙第十八號ハ元ト當省建議ニ係ル云々ノ御照會ニ付取調候處去七年十一月比當省ヨリ太政官ヘ伺ヒ定候條件之レアリ候因テ尙審査候ニ該達第二條人

民呼出狀督促狀ノ類ハ總テ民費(民費トハ即チ區内ノ民費ヲ指シタル者ナラム)タルヘシト云フハ甚々其當ヲ得サルモノ、如シ何トナレハ裁判上人民ノ呼出督促等ハ其費用固ヨリ一人ノ詞訟ヨリ生スル私費ニ属スル者ナレハ之ヲ其區内ノ損失ニ付スヘキノ理ハ之レアルマシク且現ニ前顯兵庫縣伺第一條ノ貴省御指令案ノ趣旨ニモ抵觸可致因テ該條件ハ太政官へ上稟ノ上廢止候方可然存候間貴省丙第十八號ノ第二條モ御廢止相成候テハ如何御意見ノ程御示シ相成度希望仕候此段御回答旁御照會ニ及候也

〔公債證書ヲ所有スル戸主逃亡云々ノ儀ニ付大藏

卿大隈重信ヨリ照會〕十年十月二日

公債證書ヲ所有スル戸主タル者逃亡或ハ行衛不知等ノ

節二年以内タリ其妻子或ハ遺產管守ノ者ヨリ該債主名面ノ證券ヲ以金若クハ中籤ノ元金ヲ請求セハ委任狀所持無之共事實取糺下付可然被相考且前狀同様ノ場合ニ於テ親族及遺產管守者戸長等ノ協議加印ヲ以該證書ヲ他人ニ讓賣渡願出候ハ、是亦聞届管守者ノ名面ヲ記入シ其事由及代理ノ肩書爲致置可然ト存候得共右ハ法制上ニ於テ御差支ノ義ハ有之間敷哉否至急御回報有之度此段及御照會候也

回答〕十年十月八日

公債證書ヲ所有スル戸主逃亡云々ノ儀御照會ノ趣了承右ハ貴省御意見ノ通ニテ差支無之ト思考仕候此段及御回答候也

〔人民喚出狀誤寫ノ儀ニ付内務卿大久保利通ヨリ

照會〕十年一月十日

名古屋裁判所安濃津支廳ヨリ人民呼出ノ節呼出狀誤寫ニテ名前違或ハ其呼出人名ノ者無之故ヲ以テ戻狀等往復ノ賃錢總テ民費ニ課出相成度旨三重縣ニ照會有之候趣ヲ以テ該縣ヨリ伺出有之候得共誤寫ハ元々官府ノ錯誤ヨリ相生シ候入費ニ付民費ニ賦課致候儀ハ不穩當候間該裁判所ノ官費ニ相立候儀ト可相心得旨及指令候間此段一應申入候也

回答 十年十一月十二日

喚出狀誤寫云々御照會ノ趣了承抑誤寫ニテ名前違或ハ其人名無之故ヲ以テ戻狀等ノ賃錢ハ素ト主務タル書記

ノ過誤ニ出ツルヲ以テ該書記ヨリ賠償セシムヘキト當然ト思考仕候因テ諸裁判所ヨリ伺出ノ向キエハ右ノ主旨ヲ以テ指令ニ及ヒ置候儀ニ有之此段及御回答候也

〔福島裁判所長荒木判事ヨリ建議〕十年十一月七日

人民身代限處分ノ節區入費取立ノ儀ハ明治九年第七十號本省御達ニ依テ先取ノ處分ニ及フハ勿論ニ候然ルニ區入費ノ内ニハ道路修繕費或ハ學資金等ノ如キ人民私シノ出費ニ属スルモノ數多有之ニ付書入質入ノ債主ニ先ツヘキ特權アルヘカラサル道理ト思考スルニ付處分上不都合ノ至リトハ存シ候得共右成法ヨリ生スル不都合ハ裁判上ニテハ致方モ無之候雖然其區戸長ヨリ申立ノ手續ニ至リテハ明治九年第百貳拾壹號御達ノ地方廳

ヨリ租税不納ニ付テノ通牒トハ全ク異ナルニ付當廳ニ於テハ尋常ノ訴訟ト同シク訴訟用罫紙ニ認メ出訴候上受理致候處先般福島縣ヨリ本省エ區入費取立方ノ儀ハ通常ノ公文罫紙ニ認メ通申シ可然哉ノ伺ニ伺ノ通リト御指令相成候趣同縣ヨリ通知ニ及ヒ候然處該縣管内ノ如キハ各村用掛什長等ニ於テ適宜區入費ヲ賦課シ候儀ニ付錯雜曖昧ノ廉ノミ多ク有之候仍テ原被ニ就キ多少審問ヲ經タル后ニ非サレハ未納ノ金員スラ確定致サス隨テ裁判ヲ申渡サ、レハ未納者ノ若情不勘ハ言ヲ埃サル儀ニ有之候然ルニ區會所ヨリノ照會ニ依處分シ候様ニテハ審査行届キ兼候儀ハ勿論若又齟齬ノ廉看認候テモ徒ニ往復ノ書通ニテハ速モ相分ルヘキ儀ニ無之候ニ

付矢張從前ノ通り尋常訴訟ノ手續ヲ以テ處分候方聊成法ニモ抵觸セス相當ノ儀ト存候元來身代限ノ儀ニ付テハ法律ノ周備ナラサルヨリ其弊害モ百端有之ニ付其弊習ヲ救護スルコトニ注意致シ度候間御不都合ノ筋モ無之候ハ、右福島縣エノ御指令御取消相成候様致度別紙目今審理事件ヲ謄寫シ（略）御參考ノ一端ニ供シ鄙見ノ旨趣具申仕候也

民法課評議案

荒木判事建言ハ其主旨後半段區費出訴ノ節訴訟用罫紙ヲ用フヘキ云々ニ在ルカ如シト雖モ前半段區費先取ノ如何ヲ論スルヤ云々中略一言之ヲ辨セサルヲ得ス抑道路修繕費ノ如キハ固ヨリ其區ノ公費ニシテ人

民各自ノ私費ト見做スヘキ者ニアラス之ヲ公正ノ區
 費ト謂ハスノハ其レ將々孰レヲ公正ノモノナリトセ
 ノヤ該伺ニ書入質入ノ債主ニ先ツヘキ特權アルヘカ
 ラサル道理ト謂フ時ハ通常債主ニ先ツヘキ道理ハア
 ル者ノ如シ夫レ道路修繕費ヲ以テ人民ノ私費トス則
 チ通常債主ト何ツ先後ヲ論センヤ抑書入質入ノ債主
 ニ對シテハ租稅ト雖モ先取ノ權利アルコトナシ是レ過
 官侘案ニ區入費亦同様ナルコト固不俟言然ルニ今マ書
 詳論アリ區入費ニ先ツヘキ道理アルヘカラストシ通常
 入質入ノ債主ニ先ツヘキ道理アルヘカラストシ通常
 ノ債主ニハ先ツヘキ道理アルトスルハ抑何等ノ道理
 ナルヤ又區入費ヲ訴フルハ錯雜曖昧ノ廉多々有之原
 被ニ就キ多少審問ヲ經サレハ審査行届兼候ニ付通常

訴訟ノ手續ヲ履行スヘシト謂フ時ハ租稅ト雖モ錯雜
 委曲ニ渉ル時ハ原被ニ就キ審問セサルヲ得サルナリ
 必シモ一通ノ照會狀ニテ足レリト謂フニ非ス然レモ
 租稅ノ照會ト區費ノ訴出ト自カラ其情況ヲ異ニスル
 所アルヘキニ付該伺ノ如ク通常訴訟ノ手續ヲ履行セ
 シムルコト或ハ便宜ナルヘシ然ルニ該件ニ付テハ過般
 法制局エ御質疑ノ廉モ有之ナリ云々以下略ス

(諸貸下金云々ノ儀ニ付遠藤大藏大書記官ヨリ照

會)十年十一月五日

諸貸下金ノ内仮令ハ甲乙丙三人連印ノ一紙證書ヲ以テ
 貸下各自分借金高確證ナキモノ有之然ルニ右連印ノ内
 甲他ノ負債ノ爲メ身代限處分相成候節右證書面ノ總金

額ヲ以テ出訴致シ右金額ニ對シタル割賦金ヲ受取證書裏書相濟候後其殘不足金ヲ乙丙ヨリ取立候儀ニ有之候哉

一若又右三人違印證文ニテ各自分借高確證無之上ハ甲ハ他ノ債主ヘ身代限相渡トモ出訴不致右證書面ノ金額ハ乙丙ヨリ取立候儀ニ有之候哉

一右同斷貸下金ノ内本年第六十號公布ニ寄リ其戸主其家名ヲ廢シ他ヘ入夫縁付又ハ實家ヘ改籍等致シ候者有之節ハ其轉籍後ノ家名ニ係リ取立候儀ニ候哉若然ラサレハ廢絶致スヘキ家ニ所有スル處ノ財産物ハ如何ノ順序ヲ以テ取立可申哉

右廉々取計振了解致兼候間及御問合候尤差向差圖可及

品モ有之候間其旨御了承早々御答有之候様致度此段及御照會候也

回答 十年十一月廿八日

諸貸下云々御照會ノ趣第一款第二款甲身代限ノ節ハ一應出訴シ果シテ連帶ナルヤ將タ分借ナルヤ裁決ノ模様ニ從ヒ乙丙ニ係リ出訴シ若シハ出訴セサルト相當ト存候第三款ハ轉籍後ノ家名ニ係リ取立ルト當然ナルヘシ尤本年第六十號公布ニ付テハ當省ヨリ法制局ヘ質疑ニ及ヒタルニ其家族ト財産トヲ携帶シ去テ他ヘ入夫縁付又ハ實家ヘ復籍スルノ謂ナル旨回答有之ニ付其廢絶スヘキ家ニハ毫末モ遺留セル財産無之筈ト思考仕候此段及御回答候也

〔人民呼出狀還付費用辨償方ノ儀ニ付權中警視石
井邦猷ヨリ照會〕二十年十一月
二十日

各裁判所及ヒ檢事局其他警察署等ヨリノ人民呼出狀還
付費用辨償方別紙ノ通廣島縣ヨリ申出候ニ付勘考候處
於當局ハ右伺ノ通可心得旨指令相成可然見込ニ有之候
間貴省御異存ノ有無及御問合候條至急御取調御回答有
之度候也

回答

廣島縣伺各裁判所及ヒ檢事局其他警察署等ヨリ人民呼
出狀還付費用ノ儀ニ付御照會ノ趣他ハ毫モ異存無之候
得共民事呼出狀ハ途中川支ノ如キ天災ノ爲メ遅延シタ
ル時ハ其郵便稅ハ曲者ノ辨償タルヘキ儀ト思考仕候此

段及御回答候也

明治十年十一月廿九日
司法省民法課長
牟田口權大書記官

石井權中警視殿

別紙

人民呼出狀還付入費ノ儀ニ付伺

各裁判所及ヒ檢事局其他警察署等ヨリ人民呼出狀此
出狀ハ戸長宛ニテ其結文ハ何日第何時途中川支或ハ
民事課エ可令届候也ト記載有之候ハ其呼出受ル
各應ヨリノ呼出切迫ノ期限ニシテ人居其呼出
九里有呼出ノ場所エ本月八日付テ十日午前七時
頭方有呼出ノ場所エ本月八日付テ十日午前七時
路ノ方有呼出ノ場所エ本月八日付テ十日午前七時
脚夫立夫差出定日ハ半ノ出日ニテ郵便局エ差出ハ
ニ區務所エ此故ニ其呼出到達ニ其呼出ノ期日ヲ過
タルノ類ヲ云フ區務所エノ到達ニ其呼出ノ期日ヲ過

去リ或ハ切迫ニシテ本人刻限通り出頭スル能ハサル
モノト區長確認候上ハ本人ニ傳達セス(區長本人エ傳
達スル片ハ七
年司法省甲第二十一號布達ニ據直チニ其事由ヲ細述
リ本人遲參ノ罪免ルハニ由ナシ)郵便稅ハ該廳費
シ其呼出狀ハ差立ノ各廳署エ還付シ郵便稅ハ該廳費
或ハ警察費ヨリ辨償スル方當然ノ儀ト被存候得共定
規外ニ付相伺候條至急御指揮被下度候以上

明治十年十一月六日

廣島縣令藤井勉三

內務卿大久保利通殿

〔民事訴訟濟方云々ノ儀ニ付札幌本廳開拓堀大書

記官ヨリ照會〕十年十一
月七日

民事訴訟濟方延期願中云々ノ儀ニ付過般調所權大書記
官ヨリ及御問合候處行文明確ナラサルニ付尙詳細可申

進様第三千六百三十八號ヲ以テ御申越ノ趣了承右ハ民
事訴訟取扱方ニ就テノ儀ニ有之候條尙委詳御報示相成
度此段再應申進候也

回答

去ル十一月七日附ヲ以テ民事訴訟云々ノ趣了承原被告
共死失或ハ失踪逃亡シ跡相續人モ無之時ハ其詞訟ハ自
カラ消滅スル儀ニ付其訴狀ハ固ヨリ現在件數ニ無之該
件ニ付何様ノ取扱ニ及ハサル儀ト思考仕候此段及御回
答候也

但前御照會文意頗ル審理表調製方ニ係ル哉ニ存及御
問合候處民事訴狀取扱ノ儀御再申ニ付本文ノ通御回
答ニ及ヒ候也

明治十年十二月四日

司法省民法課長

札幌本廳掘開拓大書記官殿

牟田口權大書記官

〔幼主相續云々ノ儀ニ付内務戶籍局長權大書記官
船越衛ヨリ照會〕十年十一月二十八日

幼主相續致シ候節ハ後見人ヲ可差置成規ニ候得共若シ親族其他ニテモ後見ニ可相立モノ無之節此幼主ニ對シ訴訟ヲ起シ候者有之乎或ハ此幼主ノ身代限ヲナサ、ルヲ不得等ノ場合ニ於テハ如何御處分相成候哉兼テ御例規モ有之候儀ト存候條御處分振詳細御明示有之度此段及御照會候也

回答

幼主相續云々御照會ノ趣ハ一般人民ノ幼者ニハ必ス後見人ヲ置クヘキノ成規ハ無之ト思考ス六年第廿八號布告ハ單ヘニ華士族ニ係ル者ナリ然レハ幼者ニ對シ訴訟人アル歟或ハ身代限ヲナサ、ルヲ不得等ノ場合ノ取扱方ハ固ヨリ一定ノ例規ハコレナカルヘシ因テハ右ノ場合ニ於テハ近親ノ代理スルヲ相當ノ事ト存候此段及御回答候也

司法省民法課長

明治十年十二月四日

牟田口權大書記官

内務省船越權大書記官殿

印行所 東京 博聞社

正誤

六丁五行	(損失)ハ損失
七丁十二行	(條件)ハ條件
八丁六行	(囚)ハ囚
十丁二行註	(一月)ハ十一月
十二丁九行	(若)ハ若
十五丁四行	(訴出ト)ノ下(ハ)ヲ脱ス
十七丁七行	(敷)ハ敷

五月八日
指令

司法省指令録民事部第十一號

(第一百五十三)盜贓賠償等云々ノ儀ニ付伺)十年四月
十三日

福島裁判所

司法省指令録民事部第八號載スル所東京裁判所ヨリ盜
贓賠償等ノ處分不服ノ者上告ノ儀ニ付伺へ伺ノ趣ハ刑
事ニ附帶シテ起ルモノト雖モ到底民事ノ處分ニ歸スヘ
キ筋ニ付民事ニ付テ不服ノモノハ民事ノ手續ニ依ル可
キ儀ト可相心得事但シ初告裁判所ニ於テ刑事ノ申渡ヲ
爲シタルキハ申渡ヲ受ケタル者モ刑事ノ上告ヲ爲スヲ
得ヘキハ無論ナリトスト御指令有之由是觀之ハ盜贓追
徴賠償等ノ處分ハ律ニ明文アルヲ以テ是迄一般刑事裁
判ノ部分ニ歸シ居ルト雖モ結局之レヲ分別スルキハ即

刑事裁判ハ罪科ノミノ處分ニ歸シ右ニ附帶スル贓品
 追徴賠償轉償等ノ處分ハ一般民事裁判ニ歸ス可キモノ
 ニ就テハ新律綱領給沒贓物條暨改定律例第五十一條第
 五十三條第五十四條第五十六條第五十七條第五十八條
 等ノ處分ハ悉皆民事裁判ニ付ス可キ儀ニ有之然ルニ未
 タ一定ノ御取扱振リ公布モ無之上ハ從前ノ通刑事裁判
 部分ニ加ヘ處分及ヒ可然乎然ルニ前顯刑事裁判ニ於テ
 ノ處分ヲ受ケタルノ事主等不服ナルニ於テハ刑事ノ上
 告ヲ爲スヲ得ルハ無論ナリトノ御指令ハ如何ノ御規則
 ニ基カレ候儀ニ可有之哉明治八年五月十四日第九十三號控
 訴上告手續及ヒ明治十年二月十日第十九號御改正控訴上
 告手續中刑事上告ノ部分ニ於テ更ニ明文ヲ得ス疑議不

寡候條詳細御指令有之度相伺候也

但律例第五十二條ハ結文ニ罪ヲ定ムトアレハ刑事裁
 判ノ眼目タルハ勿論タリト雖ヒ其事主本犯ノ口供ヲ
 審明シ評價人ニ估計セシムル等ハ民事裁判ノ部分ニ
 可有之哉添テ相伺候也

(指令) 十年五月八日 伺ノ趣盜贓追徴賠償等ハ掲ケテ律例ニ在
 リト雖ヒ其性質ハ全ク民事ニ屬ス但タ刑事ニ附帶シ
 テ起ルヲ以テ刑事裁判官其處分ヲ行フハ其便ニ從フ
 ナリ故ニ追徴賠償等即チ民事ニ付不服ノ者ハ民事ノ
 手續ニ據ルヘキヲ勿論ノ儀ト心得ヘシ且東京裁判所
 へ指令但書ハ控訴上告手續第廿六條ニ明文有之ニ付
 可心得候事

但書本條ノ通心得ヘシ

(理)

福島裁判所伺ハ東京裁判所ノ指令ニ付誤解ヲ生シタル者ナリ何トナレハ盜贓追徴賠償等ノ處分ハ固ヨリ律例ニ明掲セリト雖モ其性質ヲ問ヘハ即チ民事ナリ初告裁判所ニ於テハ刑事ニ附帶シテ起ルヲ以テ刑事裁判官追徴賠償ノ申渡ヲナスト雖モ之ニ就テ不服ヲ訴フルニ至テハ民事ノ手續ニ遵由セサルヲ得ス譬ヘハ今器物稼穡ヲ棄毀スル者アラソニ新律綱領棄毀器物稼穡條及ヒ改定律例第一百十條ニ據リ其罪ヲ論シ其毀損スル所ノ物ヲ賠償セシムヘシ然ルニ其罪ヲ論スルハ刑事ニシテ賠償セシムルハ即チ民事ナリ又人ノ

品物ヲ盜ム者アラソニ竊盜本律ニ據リ其罪ヲ論シ其品物ハ追徴シテ本主ニ給還スヘシ然ルニ其罪ヲ論スルハ刑事ナリト雖モ追徴給還スルハ民事ノ賠償ナリ右等賠償給還ノハ刑事ニ附帶シテ起ルヲ以テ刑事裁判官其申渡ヲナシ且ツ掲ケテ律例ニ在リト雖モ賠償給還ノハ付不服ヲ訴フルニ至テハ民事ヲ以テ控訴スル者ナリ之ヲ詳論スレハ目今人民ノ未開ナル猶未タ賠償給付ノ訴ヲナスコトヲ辨識セサルアルニ由リ官府ヨリ取立テ本主ニ給還スル者ナリ抑法律ノ原理ヨリ之ヲ論スルモ刑事ノ處分ト民事ノ賠償ト混同スヘカラサルハ固不俟言諸般法律ノ改良ト與ニ進歩改正セサルヘカラサルナリ今之ヲ法律ノ原理ニ照徴

以下五月十日指令

シテ毫モ非議スル所ナシ況ンヤ之ヲ新律ト改定トニ
據リ推究スルニ更ニ抵觸スル所ナキナリ云々

〔第百五十四〕出訴期限ノ儀 同 十年四月 熊本裁判所

今般變動ニ付戰地ノ人民ハ勿論戰地外ト雖モ兵亂ノ爲
メニ道路壅塞シ他ノ裁判所管下ヨリ當裁判所ニ訴ント
欲スル者モ不能訴又當裁判所管下ヨリ他ノ裁判所ニ訴
ヘントスル者モ不能行夫レカ爲メニ出訴期限失スル者
不尠ト存候右ハ愍然ノ至ニ付變動ノ初メヨリ道路相開
ケ候迄ノ日數ハ出訴期限ニ算入セサル様一般御布告相
成候様致シ度此段上申候也

〔指令〕十年五月十日 伺ノ趣人民諸取引等出訴期限ノ儀ハ今般
ノ騷擾ニ因リ阻障セラレ出訴スルコトヲ得サリシ者ハ

其實際ノ景狀ヲ量リ其間ノ時日ヲ除棄シ出訴期限内
ニ算入セサルコト勿論ニ候事

但布達ニ及ハサル事

〔第百五十五〕老幼ノ者代人差出方ノ儀再 同 十年四月 廿四日

長野縣

本月六日附庶甲第百五十號ヲ以代人差出方ノ儀相伺候
處老衰ニシテ至親ノ之ニ代ルヘキ者ナキ場合ニ於テハ
相當代人差出不苦旨御指令ニ有之一体本書伺ノ趣意ハ
老衰ニシテ至親ノ代ルヘキ者無之トノ義ニハ無之畢竟
行文ノ明亮ナラサルヨリ其意ヲ盡サス右御指令相成候
義ト相考候間更ニ相伺申候代人ノ義昨九年御省甲第壹
號御布達面ニヨレハ本人疾病事故ニテ云々ト有之ニ付

縱令老衰幼弱ノ者タリ共疾病事故アルニアラスノハ其代人ヲ差出スヲ得サル者ノ如シ而テ現狀ニ就テ之ヲ論スルニ老衰又ハ幼弱ノ者ハ事務ニ任シカタキヲ普通ト見做サ、ルヲ得サレハ御布達面ニ明文ナキモ理ニ於テ代人ヲ許スヘキ者ニ似タリ然レモ漫ニ老幼トシテ何歳己上何歳己下ト夫ノ律例ニ於ル如ク其年齡ノ區別ヲ以テセサレハ或ハ老幼ニ假辭スルモノアル場合ニ臨ンテ不都合ニ付右年齡ノ區別相同申候差掛候義ニ付至急御指令有之度此段再應申上候以上

(指令) 十年五月十日

老衰幼弱ニシテ代人ヲ要スル者ニ年齡ノ限リハ無之儀ト可心得事

(第百五十六) 本年丁第廿九號達ニ付伺 十年四月廿五日

大坂裁判所

第一本年丁第廿九號ヲ以テ從來目安糾ト云成例アリテ云々右ハ廢止致スヘシ事トノ御達ハ只被告ノ答辨ヲ俟タス受理不受理ヲ判決スルノミヲ廢シタルヤ又ハ目安糾ノ手續モ併セテ廢シタルヤ
 第二目安糾ヲ廢シタル儀ナレハ明治八年十二月甲第十六號ノ御達モ全ク目安糾ノ際ニ取扱フ成規ナルヲ以テ無論消滅シタルコナルヤ
 第三假令被告ノ答辨ヲ俟タス受不受ヲ判決スルコトヲ廢セラレタリトモ丁卯以前金穀貸借及ヒ己巳六月廿五日以前華士族ニ係ル金穀貸借又ハ出訴期限ノ經過シタルモノ等都テ裁判及ハサルノ成文律アルモノハ無論従前

ノ通採揚ケサル等ト存候

右相同候條至急御指揮有之度候也

(指令)十年五月十日 第一條 被告ノ答辨ヲ俟タス受理不受理

ヲ判決スルノミナラス目安糾ノ手續モ亦タ併セテ
廢止シタル儀ト可心得事

第二條 八年甲第十六號布達第一行中(目安糾ノ際)ノ五
字并ニ第一條中(目安糾ヲ爲シ)ノ六字ハ本年丁第二十
九號ヲ以テ己ニ消滅セシト雖モ該達ハ未タ消滅セサ
ル事

第三條 伺ノ通

以下五月十
一日指令

(第一百五十七)執行申渡方ノ儀ニ付伺)九年九月十五日

東京裁判所

府縣裁判所ニテ裁判スル所ノ民事ハ輕重トナク初審ト
シ上等裁判所へ控訴被差許就テハ控訴届ヲ受クル後ハ
執行ヲ停ムルノ章程ニ有之候然ル處

一自分儀原告訴ル如ク借用金元利金并期限過去未タ返
濟不致事無相違併當時不如意ニシテ一時返濟ノ資力
無之去迎身代限等ハ不承諾ナリ永年賦又ハ月賦割濟
ノ外他ノ方法無之ト

一又同上無相違證書中抵當ノ品モ無相違即今不仕合故
一時皆濟ハ不調而メ抵當物ハ大切ノ品ニ付糶賣拂ハ
迷惑也追々ニ返濟スヘシト
二條共原告ハ難澁申立身代限歟又ハ抵當糶賣拂ヲ求
ム

右二條ノ如キモノハ其事被告自ラ曲者タルコトヲ明言ス而シテ頑梗暴戻靦然トシテ屈セサルモノ一ノ作奸ノ餘地アレハナリ何ヲ作奸ノ餘地ト云裁許狀ヲ受クル是ナリ夫裁許狀ヲ受クレハ不服控訴ヲ名トシ三ヶ月ノ日ヲ徒過シ其間力所及ノ不廉耻ヲ做サントスルノミ按スルニ初審終審ノ設鄭重ヲ盡ス者ハ其争訟ヲ裁決スル或ハ偏倚不中アラソコトヲ防ク爲ナラン而ルニ義務ヲ不盡コトヲ自ラ明言スルニ於テハ初審ノ裁判スラ全ク不用也況控訴ヲヤ如此モノハ府縣裁判所ニ於テ素ヨリ裁判ハ爲サズ直ニ拂方或ハ身代限り或ハ抵當羅賣等其執行ノ申渡ノミ致シ猶頑梗不屈ノ時ハ公ノ兵力即巡査ヲ差向物品取押ノ上入札等ノ手運爲致候テ決テ章程ニ抵觸ハ無之

儀ト見込候若シ此徒ヲシテ猶初審終審ノ段階ヲ經由セシメハ嚴ニ期約ヲ踐履スルモノ鮮ナキニ至ラシメシメテ亦恐クハ章程ノ原旨ニモ背カン今日迄右等ノ類控訴ヲ名トシ三ヶ月ノ期末マテ依然引延シ暗ニ財産ヲ漏脱シ又ハ蹤跡ヲ潜匿シテ控訴ヲ爲サ、ルモノ比々有之不都合ノ至ニ付以來前文ノ如ク夫々取計申度此段仰御辨明候也

④ 太政官へ上申

東京裁判所伺第一款第二款ノ通被告自カラ明述シ其實果シテ相違ナキニ於テハ原告ノ請求ニ從ヒ身代限又ハ抵當羅賣執行ノ申渡ヲナス事當然ノ義ニシテ被告ニ於テ漫ニ不服ヲ唱エ控訴スヘキノ理由アラサル

ナリ因テ左ノ通略指令可及ト存候得共一應爲念相候也

右裁下ノ上左ノ通指令ス

〔指令〕十年五月 伺ノ通

〔第五百五十八〕戸長ノ公証ヲ受ケサル質入書入地ノ儀ニ付

同十年四月 廿七日

水戸裁判所

地所質入書入規則第九條ニ戸長役場ノ與書割印ナキ証文ハ質入又ハ書入ノ証據ニ不相成ニ付右証文ヲ以テ訴出ルニ於テハ負債主財産分散ノ時債主他ノ債主ニ對シ先取ノ特權ヲ失ヒ獨リ質入又ハ書入ナキ金穀貸借ノ處分ヲ受ク可シトアリ右ハ負債主分散スルト否トニ拘ハラヌ其質入書入ノ權利ヲ失スル儀ニ有之哉若シ果シテ

然ラハ始ヨリ質入書入ナキ尋常貸借ノ証書ト同様ノ筋ニ付負債主ニ於テ其期限内外及ヒ金穀返辨ノ有無ニ拘ハラヌ其地所ヲ取戻シ或ハ他へ典賣等ニ爲スモ債主ニ於テ拒障スルヲ得サルノミナラス期限未滿内ハ其金穀ヲ取立ツ可キ權利モ之レ無キニ似タリ抑モ地所質入書入規則ハ蓋シ專ラ債主ノ權利ヲ保護スルノ趣旨ヨリ創立セシ者ト推考ス然レハ債主怠テ戸長ノ公証ヲ受ケサル証文ハ負債主分散ノ時他ノ債主ニ對シ先取ノ特權ハ有セサルモ其雙方ノ間ニ於テハ効力ヲ存スルモノニシテ負債主其借用金穀ヲ返辨セスシテ其地所ヲ取戻シ或ハ他へ典賣等ヲ爲ス時ハ債主ニ於テ之レカ拒障ヲ爲ス可キ權利ヲ有シ法律上聊カ妨ケ無キニ似タリ明治七年

本省日誌百五十四號新治裁判所伺御指令ノ但書ニ明治六年八月一日以後証文ノ書改ヲ爲スコトヲ願フ權利ハ之レ無シト雖モ將來三年以内ノ新規質地証文ヲ求ムルノ權利ハ之レ有ル可シ云々トアリ此御指令ノ趣旨ヲ推考スルニ元來相對上質地ノ契約ナルヲ以テ其契約ノ原旨ニ基因シ更ニ新規質地証文ヲ求メ得ヘキ權利ヲ有スルナラン若シ始ヨリ質入書入ナキ尋常ノ証文ナレハ其期限内ニ於テ更ニ質入書入ノ証文ヲ求ム可キノ權利ナカレ可シ然レハ私權ヲ以テ公權ヲ侵ス可カラサルハ勿論ナレ共公權ヲ妨グルコトナキ場合ニ於テ相對ノ契約ヲ違變ス可カラサルノ事理ハ此御指令上ニ隱然含蓄スルカ如シ固ヨリ法理ニ於テモ亦當ニ然ル可シトハ信認スレ

此右規則中ニ戸長役場ノ與書割印ナキ証文ハ負債主財產分散ノ時債主他ノ債主ニ對シ先取ノ特權ナキトノ趣旨ニ止マラスシテ其上段々質入書入ノ證據ニ不相成ト鄭重ニ揭示アル文意ヲ推セハ負債主分散スルト否トニ拘ハラス前顯ノ如ク期限内外及ヒ金穀返辨ノ有無ニ論ナク其地所ヲ取戻シ或ハ典賣等ヲ爲スモ債主ニ於テ之カ拒障ヲ爲ス可キ權利之レ無キモノ歟疑議決シ難キニ付此段相伺候也

(指令) 十年五月 伺ノ趣ハ質入書入規則ニ從ヒ戸長ノ與

書割印ヲ受ケサル者ハ先取ノ特權ヲ失フモノナリト雖モ負債者其虛ニ乘シ最初契約ノ信義ヲ破リ該地所ヲ取戻シ或ハ他へ典賣等ヲ爲スノ理ハ固ヨリ之レ無

シ元來質地タルノ契約ヲナセシモノナレハ債主其理
由ニ據リ負債者ニ對シ戸長ノ公証ヲ受ケンコトヲ要求
スルノ權アルモノト可相心得候事

(理)

水戸裁判所伺質入書入規則ニ從ヒ戸長ノ與書割印ヲ
受ケサル者ハ先取リノ權利ヲ失フモノナリト雖モ負
債者其虛ニ乘シ契約ノ信義ヲ破リ該地所ヲ取戻シ或
ハ他へ典賣等ヲ爲スノ理ハ固ヨリ之レナキナリ何ト
ナレハ最初ヨリ質地ノ契約ヲ以テ金圓ヲ借入レタル
故アレハナリ果シテ然レハ債主タル者ヨリ其理由ヲ
以テ最初ノ契約ニヨリ質入ノ法則ヲ履行センコトヲ負
債者ニ對シテ要求スルノ權アルヘシ

(第百五十九)區裁判所身代限追訴ノ儀ニ付伺(十年四月三十日)

高知裁判所

區裁判所假規則第一條ニ民事ノ訴件ハ金額百圓以下ト
限リタリ然ルニ身代限執行ノ際其金額百圓以上ノ證書
ヲ以テ陸續配當ノ追訴ヲ爲ス者アリ右ハ區長ノ權外ナ
リトテ每訴之レヨ地方遠隔ナル本廳支廳ニ出訴セシム
ル時ハ往復迂回ニ亘タリ隨テ訴人ノ重劇ヲ相釀セリ必
竟區廳ノ配置ハ專ラ人民ノ便益ニ原ツカレタル舉ト推
考セハ該訴件ニ限リ金額權外ト雖モ身代限執行ヲナス
區廳ニ於テ受理ノ上一様配當ノ處斷致度此段相伺候條
至急御指令ヲ仰キ候也

(指令)十年五月 伺ノ通

(理)

高知裁判所伺ハ區廳ノ權外ナルヲ以テ一切之ニ關係
 セス每訴之レヲ本廳等へ出サシムルハ當ニ詞訟者不
 便利ナルノミナラス之カ爲メ原裁判ノ執行ヲモ延滯
 セシムルニ涉リ太タ然ル可ラス殊ニ該事ハ己ニ身代
 限處分ノ際其配當ニ加ハラノヲ要求スルノ訴ニ過
 キサルモノナレハ假令區廳權限ニ超ヘル金高ニ至ル
 モ其區廳ニ於テ之レヲ受理シ夫々至當ノ處分ヲナス
 カ如キハ事實允當ノトトス

五月十六日
 指令

(第百六十)目安糾廢止ノ儀ニ付伺(十年五月四日)

金澤裁判所

司法省本年丁第二十九號ヲ以テ目安糾ヲ廢止セラレ依

之疑義相伺候處去四月廿四日附ニテ區裁判所權内ノ金
 額ヲ本支廳ニ訴フルモノハ受理スヘシト御指令アリ右
 ハ被告人ニ於テ區裁判所權内ノ旨拒ムト否トニ拘ハラ
 ス其本訴ノ曲直ヲ裁判ニ及ヒ候哉將タ被告人ノ拒マサ
 ル節ノミ裁判ニ及ヒ候哉

但若シ本支廳ニ訴フルモノヲ概シテ受理ストセハ人
 民ノ情願ニ任スモノニ似タリ訴訟人ニシテ本支廳ニ
 訴出スルヲ希望スルハ當然ノ理ナラノ果シテ然ラ
 ハ往々區裁判所ニ訴出スル者之レナキ次第ニ立至リ
 區裁判所假規則金額何拾圓以下ノ權限モ自ラ費則ニ
 属スル儀モ可有之カト疑議ヲ生ス

右相伺候條迅速御指令奉仰候也

(指令)十年五月十六日 伺ノ趣區裁判所假規則第二條ハ何圓以下ハ必ス區裁判所ニ於テ裁判スヘシトノ主意ニ非ルヲ以テ被告ノ拒否ニ拘ハラヌ受理スヘキ儀ト心得ヘシ

但シ本文ノ理由ナルニ因リ金額何圓以下云々贅則ニ属スル儀ハ無之事

五月十八日 指令

(第百六十一)論地測量ノ儀ニ付伺(十年五月八日福 島 縣)人民所有地等ノ境界ヲ爭ヒ出訴候節其裁判應ノ照會ニ因リ屬官ヲ派遣シテ裁判官立會ノ上實地測量セシメ候慣習ニ付繪圖面書式客歲五月十六日付ヲ以相伺候處地圖裏面ニ裁許ノ旨趣并年號月日及裁判官ノ官姓名測量吏員ノ官姓名ヲ記載シ云々同九月廿八日付御指令有之

遵守シ來候處今般當縣下村界爭論有之出訴ニ付實地檢査トシテ東京上等裁判所ヨリ派出相成候官員ノ照會ニ據レハ測量ハ原被告雙方ニ擔當セシメ地方官ハ立合トシテ其現場ニ臨ムニ過キス云々然ラハ前御指令ノ意ト組替候様被存候得共既ニ訴訟入費償却規則ニモ繪圖面製調費額御掲載有之旁自今ハ原被告ニテ測量候儀ト相心得可然乎別段御達モ無之ニ付此旨相伺候以上
(指令)十年五月十八日 伺ノ趣ハ九年當省丁第六號達ノ通内務省官員藝員ノ出張廢セラレタル上ハ實地測量等ノ手續ハ其裁判官ノ適宜ニ可致儀ト可相心得候事
但シ本文ノ通ニ付最前指令ノ趣ニハ組替不致候
(第百六十二)詐偽罪處分ノ儀ニ付伺(九年十二月十六日)

五月十九日 指令 二十三

詐偽罪ノ儀從來該犯ノ情狀ニ依リ各取財坐贓不應爲等ノ律ヲ以テ處斷シ來リ候得共其詐偽ニ至テハ犯狀最多端適律ヲ擬スル殊ニ容易ナラス就テハ差向キ此一團ノ疑義兼テ相伺置度假令ハ別紙罪犯ノ如キハ何ノ律ニ擬スル方允當ニ可有之哉此段至急御教示ヲ奉仰候也
別紙

甲 兵 衛

一自分儀肴渡世致シ何町ニ住居罷在候處近來追々困窮ニ迫リ候ヨリ明治八年二月中所持ノ家作抵當ニ致シ何町乙兵衛受人ニテ何町一助ヨリ金五拾圓借受猶又明治八年四月中右家作抵當ニナシ何町丙五郎受人ニ

テ淺草何町二平ヨリ金五拾圓借受其他所々ヨリ借財相嵩己ニ明治八年七月中何町丁吉ヨリ借金五拾圓相滯公訴相成身代限濟方可致場合ニ至リ前書一助外壹人ヨリモ追々返濟方催促受候ニ付忽然不貞ノ心ヲ生シ右抵當ノ家作ハ其以前既ニ他へ賣渡居ル姿ニ取拵へ置候ハ、假令公裁ニ相成ルモ糶賣ノ御沙汰ハ相遁レ可申尤追テ身上持直次第債主へノ濟方ハ何レトモ可相成ト何町何丁目三吉妻某ハ元召仕候緣故アル者ニ付同人方へ兼テ賣渡居候趣ニ致ス可ク存シ何町戊左衛門ハ本家ノ儀ニテ家事向萬端相談モ致シ候間右ノ趣咄聞候處不宜儀ニハ候得共兎ニ角身上向取續相成候様可致旨相答候間則自分三吉方へ罷越候處同人

ハ留守ニテ妻某へ其段申入候處異儀ナク承諾致候ニ付明治七年十月廿五日代金三百五拾圓ニテ賣渡シ置候積ニ申合置其後右賣渡証書戊左衛門ニ認貫賣主甲兵衛証人ハ前書丙五郎ニ致シ然シテ右証書ハ自分方ニ竊ニ差置候處其後反古ニ致シ候哉ニテ唯今見當リ不申右賣渡ノ旨趣ハ其節代言ニ相頼候何町四助ヨリ民事課へ申立置候處前書二平一助ヨリモ出訴相成候得共右ノ次第故家作ハ相除丁吉二平ハ纔ノ身代配當金ヲ以テ濟方致シ一助ハ身代配當ニ不加新規月賦証文ニ相改メ夫々解訟相成候ヨリ明治八年十二月ニ至リ竊カニ右家作何町五助へ代金二百十圓ニ賣渡前書戊左衛門倅何某名前ヲ以當住居へ轉宅致候處明治九

年一月九日右始末前書二平代言人何村何某ヨリ御訴申上候ニ付猶被召出御糺受候處前文ノ通五助へ賣渡候ハ三吉ヨリ賣渡候儀ニテ未タ家作所有ノ儀同人名前ニ不書替故甲兵衛名前ニ候得共全ク三吉賣主ノ趣ニ申立同人御糺受候テモ同様申口ヲ合セ取繕ヒ申立候得共彼是不都合ナル處ヨリ遂ニ民事課ヨリ檢事局へ移シ刑事課へ求刑ノ上追々御糺問ヲ蒙リ然ルニ明治九年五月十九日既ニ三吉ヨリモ事實白狀致シ候ヨリ前段詐偽ノ始末發露ニ及ヒ候事

④ 太政官へ上稟

身代限ノ際債主ヲ害スルノ意ヲ以テ現在ノ財産及ヒ貸與ノ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ詐テ負債ヲ假飾スル者

ハ他人ノ財産ヲ盜取奪却スルニ非スト雖モ元來其負債辨償スヘキ爲メ自己ノ財産ヲ各債主ニ投寄シテ自カラ其財産支配ノ權ヲ失フタル者ナリ然ルヲ他方ニ藏匿脱漏スルカ如キノ類ハ詐欺取財ノ律例ニ擬シ處斷可然ト思考ス

抑詐欺罪犯ノ者其情狀百端ニシテ一道ヲ以テ盡ス可カラスト雖モ其情意ヲ原ヌレハ詐欺ノ所爲ニ歸セサルナシ然ルニ右等ノ類律例ニ正條ナキヲ以テ處斷上往々不都合アルヲ免レス因テハ右律例御創立ノ儀起創上稟ノ目的ナリ然ルニ別紙東京裁判所伺口供案ノ如キハ前陳ノ詐欺云々ニ確適スル者ニ付差向キ右等ノ類ハ詐欺取財ヲ以テ處斷スヘキ旨指令可及ト存候

此段相伺候也

右裁下ノ上左ノ通指令ス

五月廿一日
指令

〔指令〕十年五月十九日 伺ノ趣詐欺取財ヲ以テ處斷スベシ
〔第六十三〕贋造ノ手形ヲ轉賣シ贋造タル發覺セシ時轉償方ハ民刑何レノ處分ニ屬スル乎伺
十年五月十一日

神奈川縣

爰ニ甲ノ者銀行手形ヲ偽造シ乙ノ者ヨリ物品ヲ買取間モナク甲ナル者失踪シタリキ然ルニ物品ヲ販賣セシ乙ナル者ヨリ該手形ヲ丙ノ者ニ兩替ヲ乞ヒシニ確實ナル手形ト信シ兩替ヲ爲シ丁ノ者ニ見セシニ丁ナル者不審ノ手形ト見認メシヨリ丙者乙者ニ對シ返還セント談シタルニ乙者ハ全ク自分ヨリ兩替ヲ乞ヒシニ相違モナク

且該手形裏ニ記名モアレヒ轉償スルヲ肯ヘンセス然ルニ該件ノ原因ハ不正ノ品ヨリ生シタルニ依テ追徴法ニ問ヒ刑事ノ處分ニ屬スヘキ乎將タ義務ノ盡サ、ル廉ヲ以テ民事ノ處分ト相心得可然哉目今差迫タル事故有之候ニ付至急御指揮有之度此段相伺候也

(指令) 二十一年五月 伺ノ趣ハ民事ノ處分ト心得可キ事但乙者其情ヲ知ル時ハ格別ナリトス

(理)

神奈川縣伺ハ思フニ最初乙者其情ヲ知ラスシテ甲者ヨリ共手形ヲ受取リタルハ乙者ノ失誤ニシテ暫ク乙者ノ損失ニ歸シテ丙者ニ對シ辨償セシメサルヲ得ス果シテ然ラハ其手形贗造ニ付逃亡甲者ノ罪ヲ論スル

ハ素ヨリ刑事ナリト雖モ該伺丙乙ノ間ノ要償ノ點ヨリ起レル詞訟ハ民事ナリ

五月廿八日 指令

(第六十四) 雜稅未納ニ付身代限處分ノ時金祿公債証書

ノ儀 同 十年五月十八日

長崎縣

明治九年太政官第百八號公布ニ據リ一時下付ノ公債証書所持ノ者身代限ノ際金祿公債証書ハ抵當トシテ差押ヘサル儀ニ可有之哉ノ旨青森縣ヨリノ伺ニ明治九年第百九號公布ノ通書入質入等ニ致シ候儀ハ解禁ノ日迄ハ該公債証書所持ノ者身代限ノ節モ抵償トシテ差押ヘカラサル儀ト可相心得旨御指令ノ趣新聞紙上ニ掲載有之候處當縣管内明治六年鯖網代稅數口未納有之身代限處分ノ上不足金有之ニ付身代持直次第取立可申處右鯖網

代稼人ノ内有祿士族有之右等ハ税金未納ト雖モ金祿公
價証書ハ差押ユヘカラサルモノニ候哉將々年々下渡相
成候公價証書利金ノ儀モ同様ノ儀ニ候哉且后来抽籤ノ
上元金一時下渡ノ節取計方共如何相心得可申哉此段相
伺候也

(指令) 二十年五月二十八日

伺ノ趣ハ明治九年第九號公布質入書

入等解禁ノ日迄ハ差押フ可カラサルモノト雖モ既ニ
下渡シタル年々ノ利金并ニ抽籤ノ上一時下渡シタル
元金ハ格別ノ儀ト心得ヘキ事

五月廿九日
指令

(第百六十五) 本年第拾貳號公布ノ儀ニ付伺(十年二月三日)

横濱裁判所

第壹 預ケ金穀云々此金ト云フハ即今ニテハ金銀銅青

銅貨紙幣ニ限リ穀ト云フハ米麥其他雜穀類ニ限ル可
シ然ラハ其預ケノ契約ヲ爲ス時ニ當リテ己ニ通用セ
ザル古金銀銅青銅貨幣其他金銀器寶珠玉石刀劔書畫
或ハ珍重スベキ植物ノ類渾テ金穀ニ非サル動不動産
ノ如キハ固ヨリ此御布告ノ外ナリト心得候哉

第貳 此御布告中ニハ預ケ金穀云々ト示サレタレヒ明
治六年第三百六十二號御布告出訴期限規則第三條第
二項ニ依テ之ヲ視ル時ハ今般ノ御布告ハ預ケ金ニ就
テハ其期限ヲ定メサル契約ノ者ノミニ限ル事ニ候哉
第三 自今云々此自今ト云フハ今ヨリ以往取結ヒタル
契約ニ就テ向フ廿年ノ後ヨリ其前ヲ願テ指スノミノ
意味ニ候ヤ將々此自今ノ二字ハ訴訟受理上ニ於テノ

ミ見ルベキ辭ニシテ契約ノ既往將來ヲ論スルニ及ハサル事ニ候ヤ

第四 其自今ノ字ハ目今及ヒ以往ノ訴訟受理上ニ於テノミ言モノトセハ此御布告ハ分降ノ日即チ各裁判所ニ到達シタル即日ヨリ現在審按中ノ訴訟ニ就テモ此法ヲ舉行スベキ者ニ候ヤ將タ審按中ノ訴訟ハ勿論此後ニ在テモ各地方廳其御布告ヲ揭示シ揭示日限ヲ畢リ人民熟知シタル者ト看做スベキ迄ノ間ハ人民ニ於テ未タ知悉セスシテ訴ル者ハ受理シ裁判ヲ與フベキ事ニ候ヤ

第五 若シ裁判所到達ノ日ヨリ猶豫ナク舉行スル者トセハ即チ在庭ノ案件ハ直ニ徹却シ又己ニ初審ノ裁判

ヲ受タル事ノ如キハ控訴スルノ權利ヲ失ヒ同時ニ確定スル者ニ候ヤ

第六 二十年以前云々此二十年以前ト云フハ今貳千五百三十七年即チ明治十年ヨリ逆ニ推シテ二千五百十八年安政五年ニ係ル者ハ其年ノ一月ニ起ルト十二月ニ起ルトニ論ナク此法ヲ施コス事ニ候ヤ將タ滿二十年以前ト看ルヘキ事ニ候ヤ

第七 滿二十年ト看ルヘキ者トセハ此年數ヲ計算スルハ恰モ年齢計算ノ法ノ如ク舊曆中ハ一支干ヲ以テ一年トシ初年ノ月數ハ本年ノ月數ト通算シ十二個月ヲ以テ一年トシ其月數及ヒ日數ハ其初年ノ初日ヨリ滿十二個月ノ月ノ其日ニ至リ一年トシ閏月ハ本月ニ併

セ一個月ト爲シ候ヤ

第八 同上其法ノ如ク算スル者トセハ其初年月日ヲ起算スルハ原契約ノ日ニ限り候ヤ將タ期限アル者ハ其契約中ノ期限ヨリモ起算スルヲ有之候ヤ

第九 又其何ヨリ初日ヲ起算スルニ拘ラス原契約書ニ年月日ヲ脱シ或ハ略記シタル者ハ年紀ヲ脱シタルハ何時訴出ルモ妨ケス月日ヲ脱シタル者ハ彼ノ年齢計算ノ法ニ倣ヒ月ノ知レサルハ其年ノ七月ト定メ日ノ知レサルハ類ヲ推シテ月ノ十六日ト定メ候ヤ將タ別ニ裁判上ノ證據ト裁判官ノ信認スル所ヲ以テ定メ候ヤ將タ義務者ノ自認ヲ以テ定メ候ヤ

第十 一切トハ上文ニ掲ケタル二個ノ明文ニ等シキ文

言アルカ意義アル者ノ類ヲ統ヘテ稱スル事ニ候ヤ將タ此一切ト云フニ至テハ上文ノ二個ノ明文アルモノ并ニ他ノ利息禮金ヲ請ケサル(司法省明治五年第四十一號布達第二條參看スヘシ)預ケ金穀類ヲ統テ稱スル事ニ候ヤ

第十一 若シ其一切ト云フモノ泛ク他ノ利息禮金ヲ請ケサル預ケ金穀ヲ指シテ言フ者ニ非サル者ナル時ハ預ケ金穀ニテ利息禮金ヲ請ケサル分ハ明治七年第廿七號御布告ニ依テ同年五月一日以後此迄其年數ニ拘ラス受理シ貸金同様ニ裁判スル事ト成リ居タリ故ニ前項ノ二個ノ明文アル者トノ殊ナルハ只刑律費用受寄財産條ニ問ハサルノミニ在テ年數ニ拘ラス受理ス

可キハ依然トシテ二個ノ明文アル者ニ異ナラザリシ
而シテ此ノ御布告彼ノ二個ノ明文ナキ種々ノ預ケ金
穀ニ關セサレハ其種々ノ預ケ金穀ハ仍ホ年數ニ拘ラ
ス受理シテ裁判シ苦シカラス候ヤ右相伺候也

〔指令〕二十年五月 伺ノ趣左ノ通可相心得候事

第一條 金トハ現ニ融通セル金銀其他紙幣并古金銀
等ノ新舊貨幣ヲ云ヒ穀トハ米麥雜穀類ヲ云フ

第二條 期限ノ有無ニ拘ハラサル

第三條 第十二號布告ノ日ヨリ二十年以前ニ係ルモ
ノヲ指ス

第四條 揭示日限内ハ無論受理ス可シ

第五條 前條ノ通相心得可シ

第六條 五年當省第四十四號達ニ據リ該布告ノ日ヨ
リ以前エ逆算ス可シ

第七條 年數計算方ハ五年當省第四十四號達ノ通り
相心得ヘキ事

第八條 第六條指令ノ通可心得事

第九條 裁判官ノ至當ト看認ムヘキ證據ナキモノハ
義務者ノ利益ト爲ルヘキ方ニ判定ス可シ

第十條 一切トハ上文ノ明文アル預金穀ニノミ就テ
言ヒ明文ナキ預ケ金穀ニ關係ハ無之事

第十一條 明文ナキ預金穀ハ七年第二十七號布告ニ
據リ五年第三百十七號布告并同年當省第四十一號
布達第一條ノ通り處分可致事

① 太政官へ上申 十月十日

横濱裁判所ヨリ本年第十二號布告ノ儀ニ付伺出候内
 別紙拔寫（第一條）ノ廉々審按候處預金穀トハ管ニ字面
 上ニ據リ之ヲ見レハ其限界廣漠ニシテ判然致兼候得
 共篤ト該布告ノ旨趣ヲ按スレハ金トハ現ニ融通セル
 金銀紙幣并古金銀等ノ新舊貨幣ニ止リ其他一切ノ金
 属物マテ包含シタル儀ニハ有之間敷（若シ）貨幣ノミ
 ヲモ含ミタルモノトセハ種々ノ器物ヲモス他金属
 サルヲ得ス然ル時ハ封ノ儘預リ置カ又ハ融通使用ヲ爲
 該布告ノ儀ニ對シ却テ其要ヲ失セヨト融通使用且
 ヒ御裁下ノ儀ニ付テ本年月十日附テ以テ上申ニ及
 之ニ加ヘサルモ裁判上困難ヲ生ス可キ憂ハ無之儀
 致候（又）穀トハ米麥雜穀類ニ限ルモノト思考仕候且
 ツ該布告ノ二十年以前ニ係ルモノハ一切裁判不及ト

云フ制限ハ固ヨリ契約期限ノ有無ニ拘ハラズ一般該
 布告ノ日ヨリ既往ニ遡リ二十年未滿ノモノハ受理審
 判ニ二十年以外ハ採上裁判不及儀ト相心得指令可致
 存候此段爲念相伺候條至急御指揮相成度候也

印行所 東京 博聞社

五月三十一日指令

司法省指令錄民事部第二十二號

(第百六十六)八年第二百九號御達ノ儀ニ付伺(九年四月十八日)

在宮崎縣有馬判事

明治八年第二百九號御達婚姻又ハ養子養女ノ取組若クハ其離婚離縁縱令相對熟談ノ上タリトモ雙方戶籍ニ登記セサル内ハ其効ナキ者ト看做ス可ク云々ト有之候付テハ雙方父母親屬熟談ノ上人ノ妻トナリ男女ノ子アル者ト雖モ戶籍ニ登記無之者ハ犯姦告訴等ノ節無論處女ト看做シ處分致ス儀ニ可有之尤右ノ者夫又ハ夫ノ祖父母父母ヲ謀殺故殺毆傷罵詈等ニ至ル迄總テ凡人ヲ以論シ且人ノ養子女トナリテ同居シ實際親子ノ會釋ヲ爲ス者ト雖モ前同斷ノ者ハ皆凡人ヲ以處分致シ可然哉已ニ

戸籍法規則確定ノ上ハ婚姻又ハ養子女等其時々送籍等
 ヲ不爲者ハ無之筈ニ候得共邊土僻隅ノ愚民ニ至テハ絶
 テナシトモ難確定候ニ付犯者アルニ臨ニ實際ト條理上
 ト不都合ヲ可生様有之關係不尠聊疑義ヲ生シ候條豫メ
 御指揮ヲ受置度此旨相伺候也

(理) 太政官へ上申 十年四月 十三日

婚姻又ハ養子女ノ取組若シハ離縁等ノ儀ニ付テハ八
 年第二百九號ヲ以テ使府縣へ達セラレタリ然ルニ該
 達ハ文意稍明確ヲ欠キ或ハ有馬判事伺ノ如キ疑團ヲ
 生スルアリト雖モ篤ト該達ノ文意ヲ熟案スルニ假令
 ヒ相對熟談ノ上タリヒ云々ノ文字アリテ既ニ其婚姻
 ヲ行ヒ夫婦ト爲リタル者ヲ指的スルニアラス其主意

ヲ約言スレハ婚姻養子ノ取組等ヲ爲スニ當リ雙方ノ
 熟談ノミニテハ一概ニ之ヲ夫婦父子ト見ル可カラサ
 ル旨ヲ示シタルモノナリ(尤モ最初該達施行ノ際此ノ
 ノ辨明ト其旨意ヲ異ニセシヤモ知ル可カラサレトモ
 今日ノ日法律ノ改良脩正ヲ要スルニ當テハ成ルヘシ
 舊法ヲ破毀セス之カ辨明ヲ以テ其効ヲ得セシムルヲ
 良トス)然ルニ若シ之ヲ以テ既ニ婚姻ヲ行ヒ親族隣里
 モ之ヲ認許セシ者ニ適用シテ凡人ヲ以テ處分スルハ
 實ニ人類社會ノ根本タル一家親族ノ大倫ヲ亂スヘキ
 法律ト云ハサルヲ得ス
 別紙有馬判事伺ノ如キ其實明々タル夫婦親子ニシテ
 獨リ戸籍ノ登記ヲ欠ク者若シ謀殺故殺犯姦等ノ事ア

ラノニ凡人ヲ以テ之ヲ論セシ耶是レ其形ヲ論シテ其實ヲ論セサル者大ニ法律ノ原旨ニ悖戾スト謂フ可シ然リト雖モ其戸籍登記ノ届ヲ爲サ、ル情實ニ因リ元ト其婚姻等ノ成リ立タサル不良ノ所爲アル者ハ其効ヲ失ハシムルモノモ之レアルヘシ因テ別紙ノ通（略）指（指）令可及ト存候且左ノ指令案ノ趣旨ニ從ヒ各裁判所ヘ念ノ爲メ本省ヨリ布達ニ及ヒ度此段相伺候條早速御裁令相成度存候也

右裁下ノ上左ノ通指令ス

〔指令〕（指）十年五月 伺ノ趣八年第二百九號ノ諭達後其登記（指）三十一日 同ノ趣八年第二百九號ノ諭達後其登記ヲ怠リシ者アリト雖モ既ニ親族近隣ノ者モ夫婦若シクハ養父子ト認メ裁判官ニ於テモ其實アリト認ムル

者ハ夫婦若シクハ養父子ヲ以テ論ス可キ儀ト相心得可シ

以下六月一日指令

〔第一百六十七〕丁第二十七號司法省達之儀ニ付伺（指）十年四月十八日

大坂裁判所

明治六年第三百三十九號御布告ニヨリ同年十月十日以後ノ證書ニ實印ヲ用ヒス爪印或ハ花押商用印等ヲ用ヒタルモノハ裁判上證據ニ不相立ニ付即チ無證據同様トナシ受理及ハス却下致候等ニ候處今般丁第二十七號御達ノ趣モ有之ニ付以來ハ唯裁判上ノ證據ニ不相立迄ノモノトナシ受理シテ被告ノ答辨ヲ要スヘキ筋ニ候哉御指令相成度候也

但本文受理スヘキ筋ニ候得ハ貸借其他ノ儀ニ付無印

ノ証書ト雖モ証書アレハ則端緒アル筋ニ付憑據アル
訴トナシ受理スヘキ哉

〔指令〕^{十年六月十一日} 伺ノ趣本年第四十四號公布ノ通ニ付受理
審判スヘキハ勿論ノ事

〔第六十八〕法律上說辨ノ儀ニ付伺^{十年五月十日}

和歌山縣

預リ金及質屋職貸金等ノ儀ニ付本年二月廿日付ヲ以相
伺候處各人民ニ對シテハ法律ノ辨明一切不致旨同三月
五日附ヲ以御指令^{第九十五號}有之候然ルニ縣下代言人共
ヨリ法律及ヒ御布告等疑惑ノ廉有之本人共ヨリ伺方順
序ノ儀申出ノ次第モ有之客年七月十四日付ヲ以相伺候
處同年八月一日付ヲ以伺ノ趣ハ人民ニ對シ地方官ヨリ

教示候儀ハ不苦尤指令スル筋ニ無之儀ト可相心得旨御
指令有之候於是其前後御指令ノ本旨ニ就キ反覆審按ス
ルニ一ハ以テ教示スル不苦ト有之一ハ以テ各人民ニ對
シ法律ノ辨明ハ一切不致ト有之此前後兩度御指令ノ趣
教示辨明ノ區別ニ於テ稍々其趣ヲ異ニセシ哉ニ相考候
ヨリ尙又本年三月廿二日付ヲ以テ別紙^{之略}ノ通涉疑ノ廉
相伺候處各人民ニ對シ法律ノ辨明不致儀ハ本年三月五
日相達候通ニ候旨且前指令ノ所謂教示トハ地方官一己
ノ所見ヲ以テ示論スルノ謂ニシテ指令辨明スルノ謂ニ
非ス故ニ教示ハ準據スヘキノ命令ニ非ス又遵守スヘキ
ノ効力アルニ非ス斯理由ナルニ因リ前後ノ指令抵觸ハ
無之旨尙御指令^{第九十九號}ノ次第敬承致シ候若シ然ラハ

地方官一己ノ所見ヲ以テ示諭スルモ固ヨリ其法律ノ大旨ヲ詳明ニセサレハ假令教示ニシテ指令辨明スルノ謂ニ非サルモ臆測想像ノ概説ヲ以各人民ニ教示セハ管ニ準據スヘキノ命令ニ非スト雖モ此人民ニ在リテハ單ニ又遵守スヘキノ効力有之者ト信認致ス可キハ地方官民ノ間ニ於テ最是免レ難キノ理勢ニ有之哉ニ相考候得共今般御指令ノ趣旨ヲ以熟按スルニ果シテ是レ偏狹固陋ノ卑見ニ可有之因テ姑シ此卑見ヲ擲テ各人民ニ對シ法律ノ辨明不致儀ト敬認致候上ハ一切其儀無之ト雖モ本來其疑惑ニ涉リ候廉ヲ以地方官ヨリ相伺候儀ニ有之付テハ固ヨリ行政司法ノ權限ニ於ケル今更明辨ヲ要セサル儀ニ候得共所謂地方官一己ノ所見ヲ以テ各人民へ教

示スルニ方リテ其本旨ノ所在ヲ詳明ニセサレハ設令指令辨明スルニ非サルモ何ソ一言ノ以テ之レニ施スヲ得ノヤ是則其所見ヲ發揚スルノ淵源要具ニシテ決シテ輕易等閑ノ間ニ付ス可キモノニ無之候間何レニモ當廳心得ノ爲メ詳悉何分ノ御明示無之時ハ自然施政上彼是多少ノ支牒ヲ相生シ實際不都合不尠儀ニ付別紙(之略)疑惑ノ件々當廳限リ御辨明相成度此段尙又相伺候也

(指令) 十年六月十一日 伺ノ趣ハ各人民へ教示スル爲ニハ當省ヨリ辨明致サス候事

六月八日 指令

(第百六十九) 訴訟用野紙ノ儀ニ付伺 十年六月七日

熊本裁判所

今般ノ變動ニ付熊本ハ勿論管内ノ各地ニテモ兵火ニ罹

リシ場所ハ訴訟野紙賣捌所之レ無ニ付當分ノ内訴狀ハ尋常白紙ニ認メ爲差出可然哉至急御指揮ヲ乞フ

六月十五日
指令

(指令) 十年六月八日 六月七日ノ電報訴訟用野紙ノ儀ハ伺ノ通
(第百七十) 本年十二號公布預ク金裁判法ニ付再伺 月十五年
日 宮城上等裁判所

本年第十二號公布預金穀云々ノ疑義先般相伺本月一日附ヲ以テ逐條御指令相成處右第三條但書ニ封印ノ儘預リ置カ或ハ融通使用ヲ爲サ、ルノ明文無キ者ハ七年二拾七號公布ニ依リ悉皆通常貸借同様處分致ス可キ義ニ付云々ト有之右御趣旨ヲ熟考スルニ通常貸借ナルヲ以テ壬申第三百號第三百十七號兩布告ニヨリ丁卯己巳以前ノ分ハ受理不致ニ付不權衡無之トノ義ニ可有之乎果

シテ然ラハ本省布達同年第四拾壹號第二條ニヨリ預ケ金利足禮金ヲ受サル分ハ同號第壹條ニ不拘七年第貳拾七號公布後モ裁判及ヒタルハ各裁判所各地方廳ヨリノ伺へ御指令ニ明瞭タレトモ今般當廳へノ御指令ニ據レハ壬申四拾壹號第二條并各廳へノ御指令ハ悉皆御改正相成タルト心得可然哉此段更ニ相伺候也

(指令) 十年六月十五日 伺ノ趣本省達壬申第四十壹號第二條ハ改正スヘキモノニアラスト雖モ從前各廳へノ指令ハ援引不相成候事

六月十六日
指令

(第百七十一) 數名連印ニテ金穀其他借用セシ借主處分ノ儀ニ付伺 月六年六月 仙臺裁判所

第一條 金穀其他借用証書中借主數名連印ニテ各自分

借ノ員數ヲ記載セル分ハ各自負擔スヘキ義務ヲ盡シ釋放ヲ得ル當然ナリト雖モ若シ連印中失踪又ハ死亡シテ相續人之ナキカ又ハ本人身代限濟方ニ及ヒ不足相立時ト雖モ他ノ連印セシ者其不足ノ部分ニ關係セサルモノトセハ明治八年第百二號御布告同年十月一日以後借用證書ヘ加印候者ニ辨償セシムル方法ニ抵觸セン元來連印ノ證書タルヤ假令各自ノ分借ヲ記載スルモ其原數名ニテ全額ヲ負擔シ互ニ保証スルノ理由ナルヲ以テ各通ノ證書ト同視ス可カラズ故ニ前述ノ如ク連印中若シ身代限不足相立ニ於テハ明治八年十月一日以後ノ證書ニ加印スル者ノ權衡ニ依リ他ノ連印者ニ其不足分辨償セシメ可然哉

第二條 負債主連名中甲乙管轄ヲ異ニスル者アラハ甲ノ管轄ニ於テ審判スルヲ願モ乙ノ管轄ニ於テスルヲ願フモ原告人ノ情願ニ任ス可キ筈ナレト分借ノ員數記載セサル證書ニ於テハ各自全額ヲ負擔スルノ義務アルヲ以テ其義務ヲ得可キ者ノ擇ム所ニ依リ其義務ノ全部ヲ行ハシム可キ求メヲ受ルモ其負債主ニ於テ擔當セサルヲ得ス茲ヲ以テ甲ノ管轄ニ訴出タル者アル時ハ乙者ニハ關係ナク其全部ノ濟方申付可然哉

但乙者ヲ喚出サ、レハ事理判然ナラサル時ハ此限ニアラス

右相伺候也

(指令) 十年六月十六日

伺ノ趣第一條連印者ハ受人證人ト其性

質ヲ異ニスル者ニ付分借ノヲ記載セス又分借ノ證
アル連印者ハ互ニ其不足ヲ負擔スルノ義務無之事
第二條分借ノヲ記載セス又分借ノ證ナク連帶ノ義
務アル者ハ全額ヲ負擔スヘキ義務アル者ニ付債主甲
ノ管轄ニ訴訟シタル時ハ全部ノ濟方申付不苦但タ甲
ナル者乙ノ喚出ヲ請求スルハ此限ニアラサルヲ

(理)

仙臺裁判所同第一條ハ八年第六十三號布告ニ據ル時
ハ各自分借ノ員數ヲ記載シ若クハ分借ノ明證アル者
ハ各自ノ部分ヲ負擔シ連印中失踪若クハ死亡シテ相
續人ナキノ場合ト雖モ他ノ連印者ハ關係セサル者ニ
シテ債主ニ對シ連帶ノ義務アル者ニ非サルナリ(八年第六

十三號布告ハ其趣旨ノ明了ナラサルノミナラス連帶
義務ノ本旨ニ背キ法ノ眞理ニ戾リタル者ナリ然レモ
此成文律アリ得ス請人證人ハ八年第百二號布告有之以
從セサルヲ得ス上ハ同年十月一日以後借用證書ニ加印スル者ハ則チ
借主身代限ノ節不足アレハ之ヲ辨償スルノ義務ヲ負
擔スヘキ者ナリ然レモ連印者ハ固ヨリ受人證人ト同
視スヘカラス分借ノ明文若シクハ其證アル者ハ連帶
ノ義務アルヲナク唯其債主ニ對シ各其一部ヲ負擔ス
ヘキ者ニシテ該伺ノ所謂全額ヲ負擔シ互ニ保証スル
ノ理由ハ決シテ見出サ、ルナリ第二條分借ノヲ記
載セス又分借ノ證ナク連帶ノ義務アル者ハ債主ノ求
ニヨリ全額ヲ負擔スヘキノ義務アルニ付其債主甲ノ
管轄ニ訴訟シタル時甲へ全部ノ濟方申渡シ可然ト雖

モ甲ヨリ乙ノ喚出ヲ請求シタル時ハ此限ニアラサル
ヘシ

以下六月廿日指令
〔第七十二〕租税不納ノ者裁判所へ送附方ノ義同
十年五月三日

青森縣

明治九年第百二拾壹號公達ノ趣ヲ考フルニ租税不納ノ者身代限リノ處分ヲ裁判所へ請求スルニ尋常ノ訴訟トハ其性質異ナルニ付不納人姓名及其金高不納ノ次第ヲ詳記シタル通牒狀ヲ送附スル義ニテ訴狀ヲ造ルニ不及筋ト相心得候處弘前裁判所ニ於テハ訴狀ニ添フル掛合狀ハ公達ノ通公文用紙ヲ用ユル勿論ナレヒ其處分ヲ請求スルハ則チ一ノ訴訟ニ付訴訟用界紙ヲ用ヒ訴答文例ニ比準可致旨申聞右公達ニ抵觸スルニ似タリ如何可相

心得裁目下差懸リノ事件有之此段至急相伺候也

〔指令〕二十年六月 同日 趣ハ通常訴訟ノ手續ヲ履行スルニ及ハス候事

〔第七十三〕審理表調製方ノ儀ニ付同
十年六月十四日

名古屋裁判所

審理表調製方松本裁判所同ノ御指令八號中第百八ニアリニ公判身代限ハ勿論示談身代限ト雖モ既ニ該詞訟ヲ和解シタルモノナレハ未裁ニ属スルモ己裁ノ部内ニ記入スヘク云々トアリ此ニ因テ之ヲ觀レハ其表面ト實際ト相違スルモノ甚クシク稍允當ナラサルヲ覺ユ何ントナレハ凡民事ノ訴訟ニ在テ身代限ノ如ハ其裁判宣告ニ及フモ一件落着ト云ヘカラス做テ可ナラント見先ッ其身

産ヲ差押揭示ヲナシ六十日ヲ經過シテ後財産ヲ競賣シ
 分配ヲナシ其負債ニ充タサル時若シ受人證人等アレハ
 之ヲ提喚シテ辨償セシメ其辨償スル能ハサルモノハ又
 身代限ノ處分ニ及フモアリモ亦斯ノ如シト雖或ハ書入質
 ノ有効無効ヲ争フモノアリ或ハ分配先取ノ特權ヲ争フ
 モノアリ其審理中ニ三四ヶ月乃至五六ヶ月ヲ越ヘ又ハ
 他管ニ干涉シ繁難ノ事件等ニテ宣告ノ后一ケ年ヲ越ル
 モ落着ニ至ラス百事百質舉テ數フルニ違アラスト雖モ
 其紛紜ヲ生スルモノ必ラス裁決セサルヲ得ス悉ク其順
 序ヲ盡シ而テ證書ニ裏書シ畢テ后一件結局トナス故ニ
 當裁判所ニ於テハ審理表調製スルノ時ニ臨ミ已ニ身代
 限ノ裁判宣告シタルモ未タ結局ニ至ラサルモノハ表中

己裁ノ部内ニ記入セス未裁ノ部内ニ記載シ其外側ニ延
 滞ノ理由ヲ朱書シテ進達ニ及ヒタリ三月己來當廳ヨリ
レナ抑該審理表ノ御制定ニ於ケルヤ蓋シ事務ノ繁間延
 滞ノ多少裁判官ノ勤怠等一目瞭然敷知スルヲ要スル
 ノ御趣意ナラシ果シテ然ラハ前ニ云フ松本裁判所伺ノ
 御指令ヲ墨守スル時ハ表面ニ無之空件ヲ裁決スルモノ
 夥多有之實際ト齟齬シ不都合ナラスヤ右己裁未裁記載
 ノ部如何相心得可然哉詳細御指令有之度相伺候也
 (指令) 二十年六月 伺ノ趣ハ既裁ノ部ニ入ル可キ儀ト心得
 可キ事

(理)

名古屋裁判所審理表調製方伺ノ儀ハ要スルニ過般松

本裁判所へ御指令ニ反シテ公判ト示談ノ區別ナク身代限後一件落着ニ至ル迄ハ共ニ未裁ノ部ニ入レサレハ裁判官ハ空件ヲ裁決スルモノアリテ實際ト齟齬シテ不都合ナリト云フニ過キス抑モ既裁未裁ハ訴訟裁判ノ決未決ノ謂ナリ身代限ノ如キハ即チ其執行ノ手數ナリ又其請人證人ヲ追訴スルカ如キハ本案ノ訴訟ニアラス更ニ新訴ト云フ可キモノナリ示談ト雖モ亦然リ唯々示談ニ於テハ義務者自カラ義務アルヲ認ムルヲ以テ裁判言渡ヲ要セスト雖モ本訴訟ノ落着シタル者ナレハ未裁ノ部ニ入ル可キモノニアラサルナリ之ヲ既裁ノ部ニ入ルモ固ヨリ不都合ナル可シ

(第七十四)貸借上廢手數料之建議)十年六月六日

一級判事補尾藤行雅

尾藤行雅謹テ大木司法卿閣下ニ言ス行雅謝劣不肖ノ身ヲ以テ茲ニ所長代理ノ任ヲ辱フシ夙夜淬勵速ニ獄囚ヲ審斷シ訟詞ヲ判理セント欲シテ是レ日モ足ラス亦何カ他ヲ顧ルニ暇アラシヤ雖然行雅竊ニ謂ラク苟モ卑見ノ在ルアリテ敢テ具上セサレハ則明治八年第九號ヲ以テ布示セラレシ如ク閣下言ヲ求ル急且切ナルノ盛意ニ副スル能ハサルヲ恐ル、ナリ伏シテ惟フニ人民貸借ノ契約ハ其貸借スヘキ契約書ニ記載シタル物件ノ全額ヲ授受セサルヘカテサルナリ是ヲ以テ其物件ヲ授受セズシテ只其契約書ヲ授受スル者アリト雖モ果シテ物件ヲ授受セサルノ證據アルハ還償スヘキ者ハ其義務ヲ免レ

而テ請求スヘキ者ハ其權利ヲ失ハサルヲ欲スルモ豈ニ得ヘキノ理由アラシヤ然リ而シテ今茲ニ手数料又ハ口錢ト唱ヒ其貸與スヘキ物件ノ幾分仮令ハ金千圓ヲ貸與スルニ當テ貸與者自ラ手数料等ト唱ヒ貳割即チ貳百圓ヲ前収シ而シテ其殘額八百圓ヲ交付スルハ負債者ノ承諾ニ出テ、其雙方ノ者ノ爲メニ法律ニ等シキ力アル者ノ如シト雖モ世ニ口入人ト唱ル如キ說事者ノ勞ニ報ユルト同視シ將々之レヲ拒ム者アリト雖モ其手数料ナル金圓ヲ前収セシメサレハ他ニ貸與スル者ナキニ出テ、而シテ眞ノ承諾ニ出ルニ非サルナリ故ニ其物件ノ全額ヲ授受セサレハ亦之ヲ請求スル理由ナキ權衡ニ依リ其二百圓ヲ前収シタル證憑アル者ハ之ヲ破棄シテ八百圓ヲ還償

セシムヘキノミナラス又將來此ノ如ク名實相協ハサルノ金圓ヲ貪ルノ弊習ヲ矯正スヘキ新法ヲ制定セハ彼ノ窮者ハ愈窮シ富者ハ愈富ムノ憂ナクシテ却テ得ヘキノ權利ヲ保護シ盡スヘキノ義務ヲ履行セシムル眞理ニ背カサランカ維新以降法律具ニ備リ而シテ民其冤ヲ被ムル者ナシト雖モ狂愚自ラ措ク能ハス敢テ潛越ノ罪ヲ犯シ謹テ區々ヲ布シ閣下如シ狂夫ノ言ト雖モ擇ム所アラハ幸甚ニ堪ヘス行雅再拜頓首

(指令) 二十年六月

建議ノ趣事實受ケタル損害ノ外過當ノ

手数料ヲ授受スヘキ契約ハ固ヨリ其理由ナキ者ニ付
裁判上其効シヲ得サシム可カラス九年當省達第八十
號ノ趣旨ヲ推究可致事

(理)

仙臺裁判所長代理盛岡詰一級判事補尾藤行雅建議
趣ハ人民相互ノ承諾ニ於テ成ルモノト雖モ抑無源因
ノ契約ハ其効之レナキナリ故ニ事實受ケタル損害之
外過當ノ手数料ヲ授受スルハ素ヨリ其理由ナキモノ
ニシテ裁判上無効ノモノト爲スヘキハ即チ九年當省
達第八十號ノ旨趣ナリ

六月廿一日
指令

〔第百七十五〕至親無之者區戸長ノ證書ヲ以テ代人ヲ出ス

〔職制〕十月七日

青森縣

第一條 本人疾病事故ニテ代人差出候節至親無之者ハ
區戸長ノ證書ヲ以テ相當ノ代人ヲ出ス亦若シカラズ
トハ本人ノ申立ニヨリ只其代人タルヲ保証スル迄ニ

候哉

第二條 將又區戸長ニ於テ眞ニ相當ノ代人タルヲ確認
シ然後チ差出スニ於テハ平常ノ品行迄ヲモ審ニシ區
戸長ニ於テ彌々相當ト見込ム者ヲ指シタル儀ニ候哉

第三條 果シテ然ラハ假令本人ヨリ申立タル代人ト雖
モ區戸長ニ於テ相當ト確認セサル時ハ區戸長ノ權ヲ

以テ本人へ相斷リ然ルヘキ哉

第四條 或ハ區戸長與印セシ後其代人ノ弊害アルヘキ
ヲ顧慮スルカ或ハ之ヲ確認スルアラハ區戸長前日ノ

與印取消其旨届出他人ヲ換シムルヲ得可キ哉
昨九年御省甲第壹號御布達但書中ニ付前條ノ廉々了解
不致候間御指令有之度此段相伺候也

(指令) 二十年六月 伺ノ趣本人疾病事故ニテ己ムヲ得サル
場合ニ於テ至親無之者區戸長ノ證書ヲ以テ相當ノ代
人ヲ出ス時ハ區戸長ハ唯己ムヲ得サル情實ヲ證スル
迄ト心得ヘシ

印行所 東京 博聞社

司法省指令録民事部第廿三號

(第七十六) 初審裁判以前上等裁判所ニ於テ裁判相成リ

候儀ニ付伺 十二年四月 十二日

福嶋裁判所

先般福島縣裁判事務引繼ヲ受候民事現在件數ノ内福島
縣第一區信夫郡中野村佐藤飯太郎ヨリ福島縣第一區信
夫郡上飯坂村岩澤良貞へ係ル質地取戻之訴別紙甲印演
說書相添引受候ニ付着手ノ順序ヲ逐ヒ初審裁判ニ及フ
ヘキ心得之處別紙乙印之通宮城上等裁判所ニ於テ裁判
相成リシ旨通知有之因テ丙印之通同所へ問合候處丁印
之通リ廻答相成茲ニ於テ訴答文例第二十條末項之旨趣
疑義ニ涉リ候故本年三月六日附ヲ以テ五ヶ條ノ疑義相
伺候處文例第二十條末項裁判以前ノ場合ニ於テ控訴上

告スル事ヲ聽ルサストイヘヒ若シ裁判官曲庇壓制等之
 レアル時大審院章程第五條ニ依リ刑事告訴ヲナスハ此
 限ニ在ラサル事ト御指令(第十九號)相成之レニ因テ是ヲ
 見レハ前記宮城上等裁判所ニ於テ裁判ヲナシタルハ所
 謂裁判所管理ノ權限ヲ越ヘタルモノナラソ然ラハ則別
 紙乙印之如ク通知ヲ受クヘキ筋無之ニ付之レヲ還戻シ
 該裁判ニ不關當廳ノ裁判ヲ結了スヘキモノ乎ト存候得
 共實際ニ於テ頗ル不都合ノ儀ニテ當否決兼候間差向當
 廳ノ現在件處分方ニ差支候條可然御指令被下度候也
 但本條若當廳ノ裁判ヲ結了スルニ及ハサル筋合ノモ
 ノナルトキハ此儘取消スヘキハ勿論ニ候得共裁判表
 中掲上スヘキ標目無之ニ付別紙ニ實際ノ概略ヲ記載

シ御届ニ及ヒ可然哉此段添テ相伺候

甲印

民事事件數之内明治八年第四百十一號演舌書
 九年十月
 二月

該件吟味詰ノ上口供及ヒ裁判申渡書ヲ製シ既ニ原告呼
 出シ口供へ調印申付候處被告岩澤良貞ナル者口供上異
 存ナシト雖ヒ印形失念ニ付歸村ノ上押印可致旨相答置
 共儘控訴ニ及ヒタル處九月廿三日付ヲ以テ曲庇壓制ニ
 付控訴ニ及ヒタル間右關係之書類可差出旨宮城上等裁
 判所ヨリ掛合有之タルニ依リ中止致置候事

乙印

十年二月
 十九日

福島縣第一大區信夫郡中野村平民佐藤飯太郎ヨリ同縣

四

同大區同郡上飯坂村平民岩澤良貞へ掛貸地取戻シ之訴
福島縣裁判所へ及出訴處被告岩澤良貞福島縣舊裁判所
ニ於テ結局之裁判難受旨ニテ佐藤飯太郎へ掛リ致控訴
ニ付控訴之理由審明ノ上之ヲ受理シ別紙之通及裁判候
條此段及御通知候也

宮城上等裁判所

福島縣裁判所長宛

二白初審書類致返却候也

裁判言渡按

福島縣第一大區岩代國信夫郡

上飯坂村三百十三番地平民

岩澤良貞

福島縣第一大區岩代國信夫郡

中野村百三十一番地平民

佐藤飯太郎

原告岩澤良貞ニ於テ被告佐藤飯太郎ノ質地ナリトテ取
戻ヲ求ムル字梅津屋敷ノ畑地ハ去ル慶應二年四月中佐
藤民之助エ七拾圓ノ金員ヲ渡シ買受ケシモノニシテ第
一號証書十ヶ年質地ノ明文ハ當時地所賣買ノ禁令アル
ヲ以テ表面ノ約定ノミニ有之依テ公租等モ總テ自分相
納來ル處其後民之助死跡相續人松雄義失踪イタシ且地
券改正ノ節モ其入費ヲ納メ地券狀ノ下付ヲ受ケタレハ
全ク良貞所有ノ土地ニシテ佐藤飯太郎ヨリ讓リ地或ハ
質地ナリトテ取戻ノ訴ヲ受ケヘキ理ナシ而シテ該訴ハ

五

飯太郎原告トナリ福島縣へ訴出追々審問中返地可致旨
 嚴シク諭達ヲ蒙リタレトモ前文ノ理由ヲ開陳シ承服イ
 タサ、リシニ兩度迄拘留ヲ受ケ且自分ノ意ニ應セサル
 口供ノ下書ヲ示シ捺印ヲ促サル、等何分結局ノ裁判ヲ
 仰ク能ハス不得已其旨届出控訴及ヒタル旨陳述セリ
 一被告佐藤飯太郎ニ於テ原告所持スル証書ノ如ク慶應
 二年ヨリ明治八年迄ノ質地ニシテ決シテ民之助ヨリ賣
 渡シタル儀ニ無之自分ハ三拾五圓ヲ以テ買受タル地ナ
 レハ明治八年迄ノ期限内ハ七十五圓ノ金ヲ償ヒ受返ス
 ノ權理アリト陳述ス而シテ福島縣審問ノ答辨ヲ見ルニ
 明治九年四月十四日原告本人不參ニ付巡查ヲシテ拘引
 セシメ當日拘留十五日ハ主任官外事件相崇取調ヲナサ

ス十七日一應取糺口供ノ下書下ケ渡ス云々夫レ民事上
 ノ拘留ハ以前ニテモ有間敷筈ナレモ自今堅ク被禁旨明
 治九年一月九日司法卿ノ布達アリシニ既ニ十四日ニ拘
 引シ拘留ナシヲキタル旨警察吏ヨリ通知アレハ速ニ不
 參ノ廉取糺スヘキニ其儀ナク十七日放免セシモ不參ノ
 處斷ナシタルニ非ス左スレハ警察吏へ拘引相達シ其拘
 引ノ届ケヲ受ケタレハ其日ヨリ民事上拘留ト認サルヲ
 得ス依テ訴答文例二十條末項ニヨリ之ヲ受理シ審理ヲ
 遂ケ判決スル左條ノ如シ

第一條 原告岩澤良貞ニ於テ論地字梅津屋敷ハ民之助
 ヨリ讓リ受ケシヲ當時禁令ナルヲ以テ質地ノ證書取
 置キシ旨陳述スルト雖モ第一號証書ニ對シ申分不相

立候事

第二條 原告岩澤良貞ノ所持スル地券狀ハ福島縣下第一區村役人地券調主任ニ於テ地租差出者ノ名ニ改ムヘキ事ト誤認シ下付セシナリト申立タレト誤謬ニヨリ至當ノ取消アラサル迄ハ良貞ノ地券ナリト認メ候事

第三條 被告佐藤飯太郎ニ於テ明治六年中佐藤民之助ヨリ該地ヲ買受ケタリト申立レト明治八年六月十八日公布百六號ノ如ク地券申受ケサレハ賣買ノ効ナキニヨリ其契約ヲ以テ直チニ岩澤良貞ニ對シ地券ヲ取返ノ權理無之候事

但訴訟入費ハ被告ヨリ償却致スヘシ

明治十年二月八日

丙印

十年二月十四日

過ル九日附ヲ以テ福島縣第壹區信夫郡中野村平民佐藤飯太郎ヨリ同縣同區同郡上飯坂村平民岩澤良貞へ掛ル質地取戻之訴福島縣舊裁判所へ及出訴處被告岩澤良貞福島縣舊裁判所ニ於テ結局之裁判難受旨ニテ佐藤飯太郎へ掛リ致控訴候ニ付理由御審明ノ上御裁判相成候段裁判言渡書寫ヲ以テ御通知之趣致了知候然ル處右一件ハ福島縣舊裁判所ヨリ別紙ノ如ク演說書相添現在件數ニテ當廳へ引繼相成候故貴廳御處分濟之上ハ至當ノ裁判及フヘク心得之處前記貴廳ニ於テ既ニ御裁判相成シ

上ハ當廳ノ現在件ハ溯テ明治九年九月七日ニ取調上不服
シヘキ旨届出控訴ノ部ニ組込マサルヲ得ス然ルニ初審裁
判以前ノモノニ付控訴ノ名義ヲ下タシ該件ノ局ヲ結フ
モ適當ナラサル様被相考故ニ當廳ノ現在件處分方ニ付
惑ヒヲ生シ候間貴廳ニ於テ御裁判相成候御旨趣爲心得
及御問合候條可然御回答相成度候也

福島裁判所長

宮城上等裁判所宛

二白初審書類御返却相成正ニ落手候也

民事事件數之内明治八年第四百十一號演舌書^{九年}十二月
該件吟味詰ノ上口供及ヒ裁判申渡書ヲ製シ既ニ原被告
呼出シ口供へ調印申付候處被告岩澤良貞ナル者口供上

異存ナシト雖モ印形失念ニ付歸村ノ上押印可致旨相答
置其儘控訴ニ及ヒタル處九月廿三日付ヲ以テ曲庇壓制
ニ付控訴ニ及ヒタル間右關係之書類可差出旨宮城上等
裁判所ヨリ掛合之レ有リタルニ依リ中止致置候事

丁印 十年二月十九日

福島縣下岩澤良貞ヨリ同縣下佐藤飯太郎へ對スル質地
爭訟昨明治九年現在件御處分上ニ付裁判之旨趣御問合
ニ候處右ハ過日差廻候裁許狀寫之通ニ候得共尙見込書
寫及送致候條右ニテ御承知相成度候
一福島縣中属永井秀考ヨリ差出候演說書ハ少シ相違之
様相心得候則別紙同縣回答書相廻候

右及御答候也

福島裁判所長宛

宮城上等裁判所

別紙

當縣下岩代國信夫郡中野村平民佐藤飯太郎ヨリ上飯坂村岩澤良貞へ係ル質地取戻訴訟審理中之處曲庇壓制之處分ニ不服控訴及ヒ候趣ヲ以テ該訴ニ關スル書類并ニ取扱ノ手續等可申立旨再應御掛合之趣承知致即チ御來意之廉々別紙ヲ以テ及御答候尤合併縣事務紛雜之際御報延引相成候段宜ク御領承有之度候也

福島縣

宮城上等裁判所宛

別紙ヲ以テ福島裁判所ヨリ相廻シ來ル手續書拔抄
佐藤飯太郎ヨリ岩澤良貞へ掛ル訴訟手續書

前略

追々吟味中ナレハ掛リ官員等モ兎角變換シ于今吟味詰ノ場合ニ運ヒ兼ルノ處九月七日該件不服ノ廉控訴及フ可キ趣キニテ當裁判所へ届書ハ前書泰之進へ托シ出發セシトテ九月九日右泰之進ヨリ届書差出セシ儀ニ御座候事

受理見込書

- 一原告ハ岩澤良貞ナリ
- 一被告ハ佐藤飯太郎差添人佐藤松雄ナリ

右原告ヨリ被告ニ對スル訴訟タルヤ明治八年十一月中
 佐藤飯太郎原告トナリ岩澤良貞ニ對シ質地取戻ノ訴ヲ
 福島縣ニナシタリ而シテ岩澤良貞ニ於テハ飯太郎ヨリ
 質地取戻ノ訴ヲ受ヘキ理ナシトテ數度ノ勸解ヲ拒ミタ
 リキ然ルヲ福嶋縣ニ於テ審判中良貞ノ意ニ應セサル口
 供ノ下書ヲ示シ強テ之レニ捺印ヲ勸メ或ハ拘引拘留等
 ノ所置アリテ裁判ヲ受ル能ハス依テ直チニ上等裁判所
 ニ訴出タリト
 一前項ノ次第ナルニ付上等裁判所ニ於テ之ヲ受理スル
 ニハ曲庇壓制ハ訟者ノ辭柄ナレハ初告裁判所ノ所爲ニ
 於テ果シテ曲壓ト認ムヘキモノアリヤ否ヲ審糺シ而シ
 テ訴答文例廿條末項ハ控訴上告手續頒布以後ハ消滅シ

タルモノカ否ヲ辨明スルヲ以テ主要トス

第一條初告裁判役ノ所爲ニ於テ曲壓ト認ムヘキモノア
 リヤ否ノ事

一此條ニ於テ原告良貞ノ陳述ノミニテハ直チニ曲壓ノ
 所爲ハ認メカタキヲ以テ初告裁判所ノ答弁ニ依リ左
 ノ件ヲ掲ケントス

第一 明治八年十二月中原被對審ノ時良貞ニ於テ陳述
 ヲナサス傲慢無禮ナリトテ拘留申付ル云々

右ハ代言人モ許サレシ時ニシテ強テ本人ノ陳述ヲ要
 スルニ不及且ツ傲慢無禮ナラハ裁判所取締規則ニヨ
 リ罰シテ可ナリ之ヲ罰セス拘留申付シハ當ヲ得タル
 所爲トナシカタシ

第二 明治九年四月十四日不參ノ廉ヲ以テ巡查ヲシテ
 拘引セシメ當日拘留十五日取糺スヘキ處土曜日にテ
 主任官外事件相崇十六日日曜十七日一應本案ノ事件
 取糺口供ノ下書相渡シタルノミニテ歸村申渡云々
 右民事上ノ拘留ハ以前ニテモ有間敷等ナレトモ自今
 堅ク被禁旨明治九年一月九日司法卿ノ布達アリテ既
 ニ十四日ニ拘引シ拘留ナシヲキタル旨警察課ヨリ通
 知アレハ速ニ不參ノ廉取糺スカ或ハ親類保管等申付
 ヘキニ其儀ナク十七日放免セシモ不參ノ處斷ナシタ
 ルニ非ス左スレハ警察課ニ拘引申付其拘引セシ届ヲ
 受タルハ其日ヨリ民事上ニ於テ拘留セシモノト認メ
 サルヲ得サルナリ

第二條 訴答文例廿條末項ハ消滅セシヤ否ノ事

一 明治八年六月十日各上等裁判所伺指令ニ訴答文例
 ニ照スヘキ事ト之レアルヲ以テ消滅セサルモノトス
 附錄第一號見合セ
 前記ノ如ク第一條ニ於テ壓制ノ所爲アリト認メ第二
 條ニ於テ訴答文例廿條末項ノ消滅セサルヲ知ル故ニ
 上等裁判所ニ於テ受理スルノ理アリトス

裁判見込書

一 原告ハ岩澤良貞ニシテ 初告裁判所 福嶋縣ノ 被告人
 ナリ
 一 被告ハ佐藤飯太郎ニシテ 初告裁判所 同 原告人

ナリ

右原告ヨリ被告ニ對スル詞訟ノ原因左ノ如シ

上梅津屋敷

一金七拾兩也

右ハ當寅ヨリ亥迄十ヶ年季相定申候以上

慶應二年寅四月

質地人民之助

、
、
、
、

頁貞殿

頁貞ニ於テハ當時慶應年間地所賣買制禁ニ付右ノ証文
ハ取置タレトモ其實賣買ヲナシタルモノニシテ公租等
モ自分相納且其後民之助相續人松雄義失踪イタシ旁地

、
、
、
、

券改正ノ節モ其入費ヲ納メ地券狀ハ自分名目ニテ下ケ
渡シ相成タリ依テ頁貞所有ノ土地ニ有之上ハ他ノモノ
ヨリ質地或ハ讓地ナリトテ受返シノ訴ヲ受ヘキ理ナシ
ト陳述ス

一 被告人佐藤飯太郎ニ於テハ左ノ証書ヲ所持セリ

一金三拾五圓

右ハ我等所持家敷並字梅津屋敷桑畑二ヶ所貴殿ニ
賣渡シ申處實正ナリ云々

明治六年 西 古曆四月廿三日

賣主 民之助

、
、
、
、

佐藤榮太郎殿

飯太郎ニ於テハ良貞所持スル証書ノ如ク寅年ヨリ亥年迄ノ質地ニシテ決シテ民之助ヨリ賣渡シタル儀ニ無之自分ハ三十五圓ヲ以テ買受ケタレハ亥年則明治八年ノ期限内ハ七拾圓ノ金ヲ償ヒ受ケ返スノ權アリト陳述ス

前記ノ如ク原因ハ原被ノ陳述トヲ掲ケタレトモ又一ツノ障碍アリ則福島縣令ヨリ岩澤良貞ニ該地ノ地券ヲ下ケ渡シタル事ナリ

右ハ該村地券取調主任ニ於テ地租金差出スモノ、名前ニ致ス事ト誤認シ取調タルニヨリ良貞ニ地券下付セシナリト答辨アリ

前項ノ通ナルニヨリ上等裁判所ニ於テ左條ノ如ク判決

六

第一條 原告岩澤良貞ニ於テ論地字梅津屋敷ハ民之助

ヨリ讓リ受シヲ當時禁令アルヲ以テ質地ノ証書取置キシ旨陳述スルト雖モ第一號証書ニ對シ申分不相立

候事

第二條 原告岩澤良貞ノ所持スル地券狀ハ福島縣下第

一區村役人地券調主任ニ於テ地租差出ス者ノ名ニ改

ムヘキ事ト誤認シ下付セシナリト申出タレトモ誤謬

ニヨリ至當ノ取消アラサル迄ハ良貞ノ地券ナリト認

メ候事

第三條 被告佐藤飯太郎ニ於テ明治六年中佐藤民之助

ヨリ該地ヲ買受タリト申立レトモ明治八年六月十八

日公布百六號ノ如ク地券申受ケサレハ賣買ノ効ナキニヨリ其契約ヲ以テ直チニ岩澤良貞ニ對シ地券ヲ取返ノ權理無之候事

但訴訟入費ハ被告ヨリ償却致スヘシ

④ 太政官へ上申

夫レ初審裁判所ノ裁判言渡ナキ者ハ之ヲ上等裁判所ニ控訴スヘキ理由ナキモノニシテ上等裁判所ニ於テモ固ヨリ之ヲ受理裁判ス可ラサルナリ雖然若シ裁判官ノ曲庇壓制等ニ由テ之ヲ大審院ニ告訴シ刑事ノ裁判ヲ爲スカ如キハ又此限ニ在ラスト爲ス抑モ別紙福嶋裁判所伺ノ起ル因由ヲ釋ヌルニ福島裁判所ノ未タ建タサル前福島縣裁判所ニ詞訟ヲ爲ス者アリ其詞訟審理ノ上口書調

印ヲ爲スヘキ際詞訟者ノ一人此ヲ捨テ、直チニ宮城上等裁判所ニ出テ、曲庇壓制ヲ受ケタリト控訴ス那ノ上等裁判所ニ於テハ訴答文例第廿條末項ヲ未タ消滅セサルモノトシテ直チニ之ヲ受理シ而シテ曲庇壓制ノ事ハ措テ之ヲ問ハス却テ本訴ノ民事ヲ審理裁判シテ以テ其旨ヲ福島裁判所ニ通知ス該裁判所ハ其通知ヲ得テ忽チ疑議ヲ生シ那ノ上等裁判所ト往復ノ末該伺ヲ差出スニ至レリ是レ實ニ不適當ノ處分ナリト謂ハサルヲ得ス今那ノ上等裁判所ガ依由援引セシ訴答文例第二十條末項ハ且ラシ消滅セザルモノト見做シテ之ヲ論セシ手曲庇壓制ノ訴ハ素ヨリ刑事ニシテ民事ノ控訴トハ部ヲ分チ以テ之ヲ處斷スヘキハ論ヲ俟タサルナリ果シテ然ラハ

曲庇壓制ノ訴ヲ爲ス者ヲ取テ其曲庇壓制ノ罪ヲ問ハス
シテ何ソ直チニ民事控訴ノ審判ヲ爲シ初審未結ノ争訟
ヲ覆審裁許スヘキノ理アラノヤ況ソヤ訴答文例第二十
條末項ハ明治八年第九十一號公布ニ依リ既ニ消滅セシ
モノナルニ於テオヤ然ラハ則チ那ノ上等裁判所ノ爲ス
處ハ裁判所管理ノ權限ヲ越ヘタルノミナラス裁判ノ本
旨ニ違フタルモノナリ果シテ然ラハ該上等裁判所ノ裁
判ハ固ヨリ効シナキモノトシ福島縣裁判所ノ初審裁判
ヲ結了セシメサルヲ得サルナリ因テ別紙ノ通指令可致
存候ヘト後例トモ相成ルヘキ儀ニ付爲念一應相伺候條
至急御裁令ヲ請フ

明治十年五月七日

司法卿大木喬任

右大臣岩倉具視殿

右裁下ノ上左ノ通指令ス 明治十年六月十八日

伺ノ趣宮城上等裁判所ノ裁判ハ無効ニ屬スヘキ者ニ付
初審裁判ヲ結了スヘキ事

(第百七十七)租稅不納ノ者處分ノ儀ニ付伺 九年八月三十日

和歌山縣

本年乙第六十七號大藏省布達地租徵收及ヒ租稅延納處
分規則中第四則第五則更正相成其四則中ニ五月一日ニ
至リテ完納セサル時ハ裁判官ニ附シテ身代限ノ處分ヲ
爲スヘシトアリ右ハ地方長官ノ代理トシテ租稅主任官
吏原告トナリテ其不納米金相當セル罫紙ヲ用ヒ訴答文
例ニ准ヒ訴狀ヲ作り租稅徵收ノ帳簿ヲ證據トシテ民事

聽訟掛へ訴出民事係リへ一般ノ訴狀ト同一ニ見做シ取
扱フヘキモノト相考候得共貢租ノ儀ハ外事件トモ違ヒ
特別ノ御處置振モ有之候間如何相心得可然哉本廳ノ如
キハ此節舊新貢額決算ノ際ニ付必ラス出訴可相成ト存
候間至急御指令相成度此段相伺候也

(指令)九年十月 租税不納ノ者處分ノ節ハ訴訟手續ヲ履
行スルニ及ハサルニ付通常ノ公文用紙ヲ以テ照會ス
ヘキ事

東京府

(第百七十八)同上伺(九年十月廿七日)
百般ノ租税金各人民ニ於テ及怠納候節ハ成則ニ照シ各
裁判官ニ回達及候節尋常界紙ニ相認メ可然哉ニ存候得
共爲念一應相伺候

(指令)九年十二月六日 訴訟手續ヲ履行スルニ及ハサルニ付通
常ノ公文用紙ニテ照會スヘキ事

島根縣

(第百七十九)同上伺(九年十一月八日)
第一條 身代限處分ノ節區入費取立ノ金額ヲ區戸長ヨ
リ訴出ルハ地方官ヨリ租税未納金ヲ訴出ルト同ク訴

訟用野紙ヲ用ルニ及ハサル乎
(指令)九年十二月十八日 訴訟手續ヲ履行スルニ及ハサルニ付通
常ノ公文用紙ニテ照會スヘキ事

弘前裁判所 秋田支廳

(第百八十)賣渡地所取戻之儀ニ付伺(十年五月三十日)
田畑永代賣渡シ何時ニテモ元金ヲ以差戻スヘキ契約有
之右取戻シノ訴ニ付明治五年六月福岡縣伺六年三月三

重縣伺共拾ケ年過去リ候分ハ買主所有タルヘキノ御指
 令ニ有之候處六年十一月愛知縣伺ニハ十ケ年内外ヲ論
 セス證書面ニ據リ裁判及フヘキ事ト有之最後ノ御指令
 ヲ以確當ト相心得可然哉ニ候得共無年季賃入スラモ拾
 ケ年ヲ過去レハ流地裁判ニ及フヘク況ンヤ賣渡シ証書
 ノ如キハ一層所有ノ權利ヲ重クセル者ニ有之候ヘハ無
 論流地裁判ニ及フヘキ道理ニ被相考候因テ愛知縣ヘノ
 御指令ニ拘ラス裁判及ヒ候テ可然哉此段相伺候也
 (指令) 十年六月 伺ノ趣ハ永代賣渡切ノ約ナルヤ又ハ一
 十九日 時賣渡ニテ他日買戻ノ約ナルヤ又ハ地方ノ習慣ニヨ
 リ証文面云々スルト雖モ其實質地ノ約ナルヤ本來契
 約ノ原旨何レノ點ニアルヤヲ糺明シ事實ニ基キ其効

ヲ生スヘキ様審判可致事

但福岡縣及ヒ三重縣ヘノ指令ハ援引スヘキ者ニ無
 之候事

(理)

弘前裁判所秋田支廳伺賣渡地所取戻ノ儀ハ今一片ノ
 伺面ニテハ未タ其事實ヲ詳悉スルニ由ナシト雖モ田
 畑永代賣渡シ何時ニテモ元金ヲ以テ取戻ス云々ノ文
 勢ニ就テ見レハ他日買戻スヘキ約條ニテ賣渡シタル
 意義ニモ被解候ヘヒ又或ハ疑フ從來ノ習慣ニヨリ証
 書面ノ文詞ニ拘ハラス其實全ク質入ノ約ナランカ到
 底當初契約ノ原旨何レノ點ニアルヤヲ吟味シテ事實
 ニ基キ審判セシメサレハ其原旨ノ効ヲ失フニ至ラン

但シ明治五年六月福岡縣伺並ニ六年三月三重縣伺
ヘノ指令ハ援引スヘキモノニアラサルナリ

(第百八十一)契約履行之儀ニ付伺)十年六月十九日

東京裁判所

爰ニ甲兼テ所有之地面何ク所ヲ乙ヘ賣却代金全額ヲ受
取地券ハ不日書換ヘ可渡旨相約置タル處折節他ノ債主
數口ヨリ督促セラル、場合右地所未タ所有ノ權乙ニ移
ラサルヲ幸トシ書換ノ約ハ破談ニ及ヒ該地所ハ糶賣ニ
属シ其代金各債主ヘ配當セント欲ス乙ハ之ヲ承諾セス
此ノ如キモノハ乙ハ契約履行セシムルノ權利アリ甲ニ
於テハ地券ヲ可渡義務アレハ輒ク前約ヲ破談スルハ不
道法ト心得可然哉又ハ明治八年第百六號公布ニ依レハ

該地所處有ノ權乙ニ移ラサルニ付其取扱ハ全ク甲ノ自
由ニ任ス可キ筈ナルユヘ更ニ糶賣代金ヲ以テ乙其他ノ
各債主ヘ配分スル方相當ナル歟此段相伺候也

(指令)十年六月十九日 伺ノ趣賣買ノ契約既ニ成リ代金全額ヲ

モ授受シタルモノ固ヨリ甲乙契約ノ通履行セシム可
キハ勿論ノ儀ト心得可シ

(第百八十二)明治九年司法省達第八十號債金違約金ノ儀

ニ付伺)十年六月十六日

長崎上等裁判所

明治九年第八十號御達凡ソ債金トアルハ賣買請負金銀
貸借等契約ヨリ生スル債金ヲ指シタルモノ歟將タ金銀
貸借ト賣買請負等トハ自カラ區別有之義歟此段相伺候
也

(指令) 十年六月 伺ノ趣九年當省達第八十號債金違約金
ノ儀ハ金銀ヲ主トシテ取引スル者ニ限リ候儀ト心得
可シ

但シ金銀ヲ主トシテ取引スル者ヲ除クノ外建築請
負等其他諸般ノ契約ト雖モ過當ノモノハ得ヘキ利
益ト失フタル損害ヲ照査シ其額ヲ減少スルヲ得可
シ

(第百八十三) 民事身代限分配金ノ儀ニ付伺) 十年六
月八日

愛媛縣

動産不動産ヲ書入質ニ爲シタル貸金返辨滞リ負債主身
代限リニ及ヒ其價 書入質ノ物品ヲ 負債高ニ不足ヲ生シ
外財産ヲ以テ償却分配方ノ儀他債主數名有之共最初書

入質ニセシ不足金ノ分第壹番ニ元利共濟方申付其餘分
アレハ他債主數名ヘ平等割賦スヘキ成規ナルヤ又ハ書
入質ノ分ト雖モ其不足金高ハ尋常債主同様割賦ニ止リ
先取ノ權ハ其不足金ニハ及ハサル譯ナルヤ至急御指揮
被下度此段相伺候也

(指令) 十年七月 動不動産書入質ノ物品ヲ以テ償却シ伺ホ
金高不足ヲ生シ身代限リ辨償スル分ハ該債主尋常債
主同様割賦ニ止ル儀ト可心得事

(理)

愛媛縣伺既ニ云フ動不動産ヲ書入質ニ爲シタル貸金
返辨滞リ負債主身代限(書入質ノ物品ヲ糶賣)又云フ其
價(書入質ノ物品ヲ)負債高ニ不足ヲ生シ外財産ヲ以價

却云々文理太重復曖昧ニ亘ルト雖モ要スルニ該伺ノ
腦髓タル到底書入質ノ債主ハ負債者身代限外財産ヲ
以償却スルニモ先取ノ權ヲ有スルヤ否ヲ伺フニ過ス
依テ七年三月中新川縣ヨリ六年第三百六號公布ノ儀
ニ付伺出ノ指令ニ基ツケリ

印行所 東京 博聞社

司法省指令錄民事部第二十四號

(第八十四)士族養戶主離縁ノ儀ニ付伺(十年五月十八日)

名古屋裁判所長

五等判事兒島惟謙

當主實子ナシ親族或ハ他ヨリ養子致シ既ニ戶主ト成リ
タル後身持放蕩養父母等ノ侍養ヲ欠キ又ハ卑族ノ扶助
ヲナサ、ル等ヨリ一家不和ヲ生シ遂ニ尊屬及ヒ親戚連
署シテ戶主ノ離縁ヲ願フ者往々有之然ニ其故障ナシ養
實熟議ノ調タルハ府縣限リ離縁開届行政ト裁判トノ權
ハ熟ト不熟トニヨリ別チ來リタル處明治八年四月中別
紙佐賀縣伺へ朱書ノ如ク内務省指令アリシヨリ假令戶
主及ヒ實家ニ於テ云々故障アリ未タ承諾ナサスト雖モ

養母又ハ養祖父母養家ノ親戚連署シ縣廳へ願ヒ出ル時
ハ直ニ行政官ニ於テ離縁申付ルニ至レリ愛知縣ノ如キ
スル者抑如此ニシテ養實熟議相整以テ離縁ヲ要スル者
固ヨリ行政ノ權内ナリト雖モ其戸主及ヒ實家之レヲ肯
セサル等ハ即チ裁判權内ニシテ行政官ノ處斷スヘキニ
非ス然ニ今ヤ兩屬ニ亘レリ權限歸着スル所以來如何相
心得可然哉別紙相添此段相伺候也

別紙

佐賀縣伺 明治八年四月

有祿士族實子ナシ親族ヨリ養子致候處養父死去ノ後
戸主トナリ身持放蕩養母ヲ侍養セス養母ヨリ離縁ノ
儀示談致シ候テモ養子血統ノ緣故ヲ以離縁スルヲ肯

ンセス然ルニ不孝ノ罪ヲ官ニ囑シ候テハ家名ニモ關
係候ニ付依テ離縁致旨養母ノ親戚連署願出候節申立
ノ通相違無之時ハ斷然離縁申付相續ノ儀ハ養母情願
ニ任セ可然哉相伺候也

別紙

內務省指令 八年四月七日

書面養子血統ノ緣故ヲ以離縁ヲ肯ンセサルモ事實一
家ノ浮沈ニモ關シ養母並親族連署願出候ハ、篤ト取
糾シノ上離縁ノ儀聞届不苦候事

① 太政官へ上稟

告達若クハ裁令ニ據リ事情ヲ聞糾シ離縁ヲ聽許スルハ
現今ノ體裁姑ク地方官ノ職任トスルモ甲之レヲ要求シ

乙之レヲ肯セス雙方相争ノ處分ニ至テハ之レヲ裁判所ニ訴ヘ裁判官ノ裁判ニ任スヘキナラシムル所ノ内務省指令ニ據ル時別紙名古屋裁判所同援引スル所ノ内務省指令ニ據ル時ハ養子ノ戸主縱令之レヲ承諾セサルモ放蕩一家ノ浮沈ニ管スルノ事實アリテ養母親族連署シテ願出ツルニ於テハ事情聞糾ノ上離縁ヲ聞届ケル地方官ノ權内ニ委スルモノ、如シ然ル時ハ離縁ノ際雙方熟議整ハズ如何ナル紛争ヲ生スルモ地方官之レヲ裁制處分スヘキ歟是レ決シテ其理ナキナリ抑モ離縁ノ争ヒモ即チ人民私權上ノ争ニシテ他ノ普通ノ争訟ト異ナル所ナシ然ルヲ之レノミ地方官ノ權任トスル時ハ裁判所ノ權限ニ抵觸シ如何ニモ不都合ナラシムル現今既ニ各地方裁判所ヲ設ケラ

レタル上ハ右等ノ裁判ハ勿論裁判所ノ權任ナリト思考セリ因テ左ノ通略之指令可及ト存候得共一應爲念仰高裁候條至急御裁可相成度候也

明治十年五月六日

司法卿大木喬任代理

二等判事玉乃世履

右大臣岩倉具視殿

右裁可ノ上左ノ通指令ス

〔指令〕十年七月十四日 伺ノ趣養實熟議整ハサル争訟ヲ裁制スル

ハ固ヨリ裁判所ノ權ナリト心得ヘシ

〔第百八十五〕本年第四十四號公布ノ儀ニ付伺 十年六月二十五日

高知縣權令小池國武

本年第四十四號公布相成候ニ就テハ自今人民相互ノ諸證書面ニ爪印或ハ花押等相用候分并ニ商人買販ノ品代

金等借主ノ捺印無之共裁判上有効ニ歸スル而已ナラス
渾テ實印無之證書ト雖モ取上ケ裁判ニ可相成哉至急何
分ノ御指令被下度候也

〔指令〕十年七月 伺ノ通

但有効ニ歸スルト否トハ審理ノ上ニアラサレハ判
決スヘカラサル儀ト心得ヘシ

〔第一百八十六〕證券界紙並訴訟用罫紙書損等之儀ニ付伺 十

六月二
十八日

愛知縣令安場保和

證券界紙並訴訟用罫紙へ書損ノ廉ハ改削塗抹シ實印押
捺其儘相用不苦哉又ハ改削塗抹ノ儀ハ一切不相成儀ニ
候哉即今伺出候者有之候間至急御指揮被下度此段相伺
候也

〔指令〕十年七月

儘相用不苦候事

〔第一百八十七〕民事裁判言渡書改正ノ儀ニ付伺 十年七
月九日

東京裁判所長

五等判事池田彌一

民事裁判己ニ言渡ノ後ニ至リ其裁判ノ法ニ適セサル事
ヲ覺知シタル場合ニ於テハ其裁判ヲ受ケタル原被告於
テ未タ控訴ヲナサ、ル己前ナラハ前裁判ヲ取消更ニ改
正ノ裁判言渡書ヲ下附シ可然義トハ相心得候得共爲念
此段相伺候也

〔指令〕十年七月

ヨリ動カス可キモノニ非レハ控訴ノ前後ヲ問ハス之

レヲ更改スルヲ得ス若シ其言渡ニ不服ノ者アル時
ハ控告ノ道アルナリ

(理)

東京裁判所同民事裁判言渡書改正ノ儀抑裁判ノ言渡
シハ一旦之レヲ下タセハ必ス確定不動ノモノタルヘ
キハ不俟言ナリ然ルニ該同ノ言フ如ク若シ之レヲ改
更スルヲ得ル者トセハ甚タ裁判ノ信用ヲ失ヒ且裁
判終決ノ期ナク社會安堵ノ點ニ關涉スル者タリ是レ
裁判言渡ハ同裁判所ニ於テ更改スルヲ許サ、ル一般
ノ通理ナリ又控訴上告ノ法アリテ之レヲ更改スルノ
道アルナリ

(第百八十八)盜賊賠償等ノ儀ニ付改達)十年七月
十七日

福島裁判所

盜賊賠償等ノ儀ニ付本年五月八日附指令ニ及ヒ置候處
但書左ノ通改正指令候條此旨可相心得事
但律例五十二條事主本犯ノ口供ヲ審明シ評價人ニ估
計セシムルハ罪ヲ定ムル爲メノ手續ナレハ固ヨリ刑
事ノ部分ト心得ヘシ

(第百八十九)借主身代限後請人ニ對スル詞訟權限ノ儀ニ
付伺)十年七月
四月日

水戸裁判所長
判事山田信道

從前借主身代限後請人ニ對スル訴訟ヲ追訴ト稱シ本件
ニ合接シテ受理シ來レリ然ルニ本年本省指令錄民事部
第十八號松本裁判所同御指令ノ通身代限執行未濟中ノ

者ヲ審理表既裁欄内ニ記入スル時ハ其追訴ノ習慣ヲ改メサレハ表ト實際ト齟齬ヲ生シ不都合ニ付右御指令ノ趣旨ニ基キ追訴ノ名ヲ廢シ本件ト分離シ之ヲ各別ニ受理スヘキハ勿論ナレ共追訴ヲ新件ト爲ス時ハ始メ區裁判所ニテ借主ノ身代限ヲ受ケ更ニ請人ニ對シ出訴ノ時訴訟入費利息等相嵩ニ其金額區裁判所ノ權限ヲ超ル時ハ従前ノ例ニ依リ之ヲ其裁判所ニテ受理スルヲ得サル可シ然レ共請人ハ借主ニ連續シテ義務ヲ盡ス者ナレハ前後之ヲ別廳ニ於テ受理シ候テハ審理上不都合ヲ醸スノミナラス人民亦大ニ不便ヲ生シ候ニ付借主身代限後請人ニ對スル件ニ限リ縱ヒ權限ヲ侵越スルモ官民便宜ノ爲メ原裁判所ニテ受理仕様致度此段相伺候也

(指令)十年七月十九日

伺ノ趣負債者身代限ノ後請人ニ對スル訴訟而已ナラス甲債主ノ訴ニ因リ區裁判所ニ於テ身代限ノ處分ニ及ヒタル後乙債主區裁判所權外ノ金額ヲ以テ訴へ出ル者ト雖モ原裁判所ニ於テ受理スルヲ得可シ

(理)

水戸裁判所伺ハ其主旨前半段ニ在ルヤ後半段ニ在ルヤ文意明瞭ナラスト雖モ仔細ニ推究スルニ疑問ノ要點ハ負債主身代限ノ後請人ニ對スル追訴權限云々ニ在ルカ如シ然ル時ハ過般高知裁判所へ指令ノ通負債主身代限ノ節他ノ債主區裁判所權外ノ金額ヲ以テ追訴スルモノアリト雖モ仍ホ該區裁判所ニ於テ審理ス

ルヲ許ス況ンヤ本訴ニ附帶スル請人ニ對スル訴ハ
原裁判所ニ於テ受理スルヲ得可シ

印行所 東京 博聞社

司法省指令錄民事部第二十五號

(第九十)訴訟ニ關スル測量費等償却方ノ儀ニ付伺(六月

日廿 福島裁判所長四等判事坂本政均

本省指令錄民事部明治十年第十號宮城上等裁判所伺ヲ
閱スルニ訴訟ニ關スル測量費等總テ曲者ヨリ償却致サ
ス可キ事ト御指令相見ヘ候間右ニ援例可致付テハ細目
手續左ニ相伺候

第一條 測量藝員ハ原被雙方ヨリ差出スヘキ旨相達シ
若シ其伎ニ適應スルモノ之レ無キ故官ニテ量地ノ儀請
願スルニ於テハ地方廳ヘ照會ノ上該廳ニ任用スル處ノ
官吏又ハ雇入ノ藝員相用可然哉

第二條 前條末項地方廳ニ於テ任用スル處ノ官吏又ハ

雇入ノ藝員相用ユル節其旅費日當等ハ明治九年第六十
四號公達旅費定則ニ照シ裁判廳ニテ假リニ仕拂置追テ
曲者ヨリ辨償ノ處分ニ及ヒ可然哉

但測量繪圖杭木并持夫等ノ諸費モ本文ニ準ス
第三條 前條官吏又ハ月給雇ノ者ヲ用ユルトキ其月給
ハ如何相心得可然哉

右ハ現今處分ノ事件有之ニ付至急御指令被下度候也
(指令)十年八月 第一條 伺ノ通

第二條 旅費日當ノ儀ハ旅費定則ニ照シ詞訟者ヨリ
仕拂置キ裁判落着ノ後曲者ヨリ償却スヘキ儀ト可相
心得事

但書測量ニ必用ノ諸品并ニ人夫等ノ諸費モ本文ノ

通リタルヘシ

第三條 月給ノ儀ハ若シ地方廳ヨリ賜給モサル時ハ
本人ノ求メニヨリ曲者ヨリ償却スヘキ儀ト心得ヘキ
事

(第百九十一)家屋賣主ノ權ニ付伺)十年七月七日

京都裁判所長判事増戸武平

甲者乙へ建家ヲ代價金百圓ニテ賣渡シ内金三十圓ヲ受
取殘金七拾圓ハ來ル何日受授スヘキ約束致シ候上建物
ヲ戸長役場ノ公証ヲ經テ引渡シ乙ノ名稱ニ切換タリ然
ルニ期日ニ至リテモ殘金七拾圓不相渡ヲ以テ甲ヨリ乙
ニ對シ右金相渡スカ不然ハ三十圓ヲ返却シ建物取戻シ
度旨訴出ル者アリシ時既ニ戸長ノ公証ヲ經建物ヲ引渡

四

セシ上ハ所有權ノ移リシモノニシテ取戻ノ權アルモノ
ニ非ス殘金ハ賣掛金ナルヲ以テ乙者金調不行届ニ於テ
ハ身代限濟方スヘシト裁判セシニ素ヨリ該建家モ財產
付立ノ中ニ在テ他ニ負債ナケレハ之レヲ糶賣シテ右七
拾圓ヲ償却スルニ差支ナキニ依リ情法兩全ヲ得ルニ似
タリト雖モ若他ニ數多ノ借財アリ身代限掲示中簇々追
訴スルモノアリテ財產ノ代價ヲ以テ各債主ニ分賦スル
ニ僅ニ十ノ一ニモ足ラサルニ至ルコアルヘシ乙者若シ
該建物ヲ他ニ質入或ハ抵當トナシ先取ノ特權ヲ與ヘシ
后ナレハ素ヨリ甲ノ名稱ヲ切換タル上ノ儀ニ付甲ヲシ
テ身代限ノ分配ヲ受ケシムルノ外ナシト雖モ該建物現
ニ乙ノ所有ニシテ財產付立ノ中ニアリナカラ其糶賣代

價ハ他ノ債主ニ分取セラレ夫カ爲メ元賣人^甲ナヲシテ
其賣代金ノ全額ヲ得ル能サルニ至ラシムルハ情義ニ於
テ穩當ナラサル哉ニ相考候仍テ如斯者ハ壬申第百八十
七號御布告身代限規則第十三項抵當トシテ差押フヘカ
ラサル物件ノ内未タ代價ヲ拂ハサル分ハ賣主ヘ現品ヲ
取戻スコトヲ得ヘシトアルノ權衡ニ比準シ直ニ身代限不
申付該建物糶賣代金ヲ以テ返濟シ若不足アラハ身代限
濟方スヘシト致裁判如何可有之哉
一前條ノ乙者未タ甲ヨリ訴訟ヲ受サル以前ニ他ノ債主
ヨリ貸金催促ノ訴ヲ受ケ身代限ヲ出シ財產付立ノ中ニ
右建家ヲ記載差出シタル後甲ヨリ前條同様ノ訴ヲ爲ス
トモ該建家ハ既ニ財產付立ノ中ニ入リテ他ノ債主ノ目

五